

教職の魅力向上への課題に関する調査研究

愛知県内にある六つの大学で、教職課程を履修する学生を中心に、令和3年度にアンケートを実施した。学校教員に求められる資質能力、教職を志した理由、不安や負担感などについて、四件法で調査を行った。教育実習を受けることで、教職について知ることができ、さまざまな不安を払拭することのできた学生が多くいること、部活動指導は学校教員の資質能力として必要としていないと考える学生が多くいること、理想の先生と巡り会うことで教職に就きたいと考えた学生が多くいることが分かった。

<検索用キーワード> 教職 魅力 不安 負担感 部活動指導

研究協議会委員

総合教育センター研究指導主事	太田 恵里（令和3年度）
総合教育センター研究指導主事	井上 祥子（令和3年度）
総合教育センター研究指導主事	荒井 麻里（令和3年度）
総合教育センター研究指導主事	富安 伸之（令和3年度主務者）

1 研究の目的

「令和2年度公立学校教員採用選考試験の実施状況について（文部科学省）」（令和元年度実施）によると、採用者数は35,058人で前年度より106人増加したが、受験者総数は138,042人で前年度より10,423人減少し、競争率（倍率）は、全体で3.9倍と前年度の4.2倍（一昨年度4.9倍）から低下している。本県においても、令和3年度採用の教員採用選考試験では、採用者数1,530人と前年度から40人増加したが、受験者総数は6,248人で前年度から70人減少し、競争率（倍率）は、全体で4.1倍と前年度の4.2倍から僅かに低下している。このような受験者数の減少、競争率の低下には、教職に対する負のイメージが強いこと、教職の魅力が十分に伝わっていないこと、教職の魅力向上への取組が十分でないことが考えられる。

本研究では、現代の社会における教職の概観を探ることで、教職の魅力向上への課題を明らかにするとともに、教職志願者の減少に対する有効な施策を行うための基礎資料の一つとすることを目的としている。大学生の教職に対する意識調査を通して、教職志願者増加のための方法や施策について検討し、愛知県の教育の質の維持・向上を図るため、アンケート調査を実施した。

「教職を希望する学生（以下、「教職希望学生）」「希望しようかやめようか、迷っている学生（以下、「不確定学生）」「希望していたが、現在はやめてしまった学生（以下、「変更学生）」「希望したことはない学生（以下、「非希望学生）」に分けて質問を行い、「教職希望学生」に顕著に表れた特徴はなにか、「不確定学生」が希望するように変わるための施策はないか、「変更学生」から教職への負のイメージを払拭する施策はないか、といった特徴や課題を明らかにする。

2 調査対象・方法・内容

(1) 調査対象

当センターと大学連携を行っている教育学部や教育学科をもつ大学を含め六つの大学の、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教職課程を履修する学生である。3大学（A大学，B大学，C大学）は私立大学で，残りの3大学（D大学，E大学，F大学）は国公立大学である。今回のアンケートには教職を希望する他学部の学生や教職を希望しない学生も含まれている。有効回答数は1,781人で，大学別・学年別の内訳は表1，大学別・性別の内訳は表2のとおりである。

【表1 大学別・学年別有効回答数】

	1年生	2年生	3年生	4年生	院生	計
A大	255	166	41	1	0	463
B大	76	53	69	73	3	274
C大	253	69	59	28	1	410
D大	157	135	48	20	5	365
E大	83	15	16	35	16	165
F大	0	37	25	36	6	104
計	824	475	258	193	31	1,781

【表2 大学別・性別有効回答数】

	男性	女性	回答しない	計
A大	137	316	10	463
B大	0	268	6	274
C大	0	405	5	410
D大	183	175	7	365
E大	63	99	3	165
F大	47	54	3	104
計	430	1,317	34	1,781

(2) 調査方法・調査内容

Google Formを用いて，次の六つの設問について，次の四件法で回答を求めた。

(アンケート1番)「魅力のある仕事」

(アンケート2番)「学校教員の働きがい(イメージ)」

(アンケート3番)「学校教員に求められる資質能力」

(アンケート7番)「教職を志した理由」(「教職希望学生」「不確定学生」のみ)

(アンケート8番)「教職を志すに当たり，不安に感じていること，負担に思っていること」(「教職希望学生」「不確定学生」のみ)

(アンケート10番)「教職希望を取りやめた理由」(「変更学生」のみ)

※ただし，アンケート4，5，6，9，11，12番は，志望の有無，志望の時期，性別，学年等の設問である。

「とても当てはまる」	(以下, 「とても」と表記)	} 肯定的な回答
「やや当てはまる」	(以下, 「やや」と表記)	
「あまり当てはまらない」	(以下, 「あまり」と表記)	} 否定的な回答
「全く当てはまらない」	(以下, 「全く」と表記)	

調査の時期は令和3年4月から5月で、各大学の教職課程担当者からQRコード（URL）を記載した用紙を学生に配付して、回答をオンラインで集計する形とした。

3 分析結果と考察

(1) 仕事の魅力

「魅力のある仕事」(アンケート1番・全員回答)では、学生がどのような仕事に魅力を感じるのか、その特徴は、教職志願者のみの傾向であるかなどについて、明らかにすることを目的とした。肯定的な回答をした学生の上位項目は、次のような結果であった。

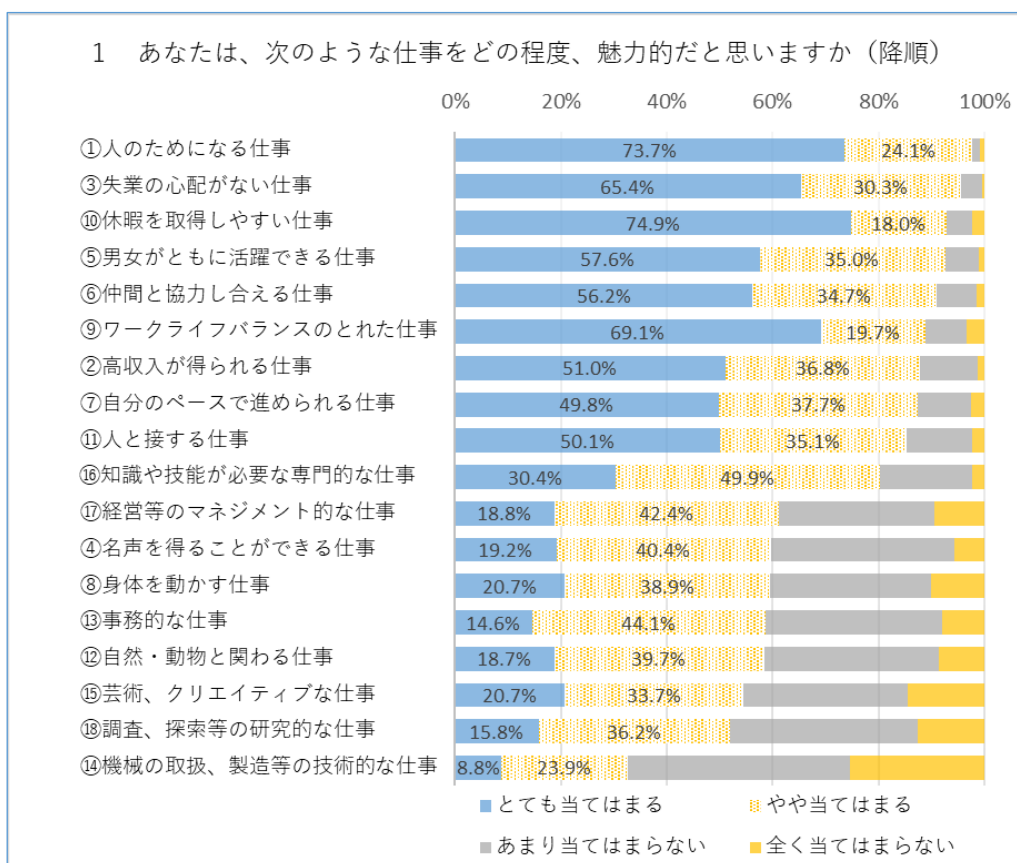
①人のためになる仕事	97.8%
③失業の心配がない仕事	95.7%
⑩休暇（産休，育休，有給休暇，長期休暇）を取得しやすい仕事	92.9%
⑤男女平等で，男女がともに活躍できる仕事	92.6%
⑥仲間と協力し合える仕事	90.9%

教員養成課程をもつ大学への調査人数が多いためか、「①人のためになる仕事」の割合がいちばん高くなった。次いで、「失業の心配がない」「休暇の取得しやすさ」「男女平等である」など、労働条件の安定を求める項目が上位を占めた。「とても」を回答した学生だけで上位項目を見ると、次のような結果であった。

⑩休暇（産休，育休，有給休暇，長期休暇）を取得しやすい仕事	74.9%
①人のためになる仕事	73.7%
⑨個人の生活と仕事が両立でき，ワークライフバランスのとれた仕事	69.1%
③失業の心配がない仕事	65.4%

僅かな差であるが「⑩休暇（産休，育休，有給休暇，長期休暇）を取得しやすい仕事」が割合としていちばん高くなっており，ワークライフバランスのとれた仕事であるなど，労働条件の安定について重視している学生が多いと捉えることもできる。

【図1 「魅力ある仕事」について「とても」「やや」を回答した割合の降順】



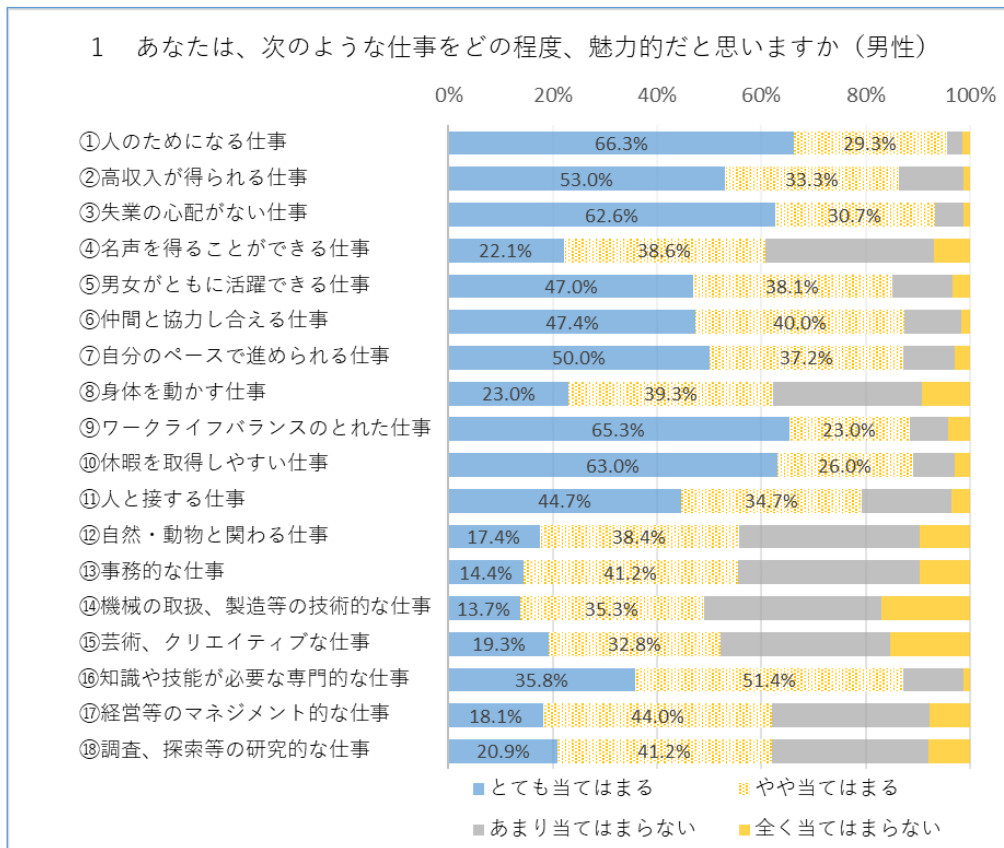
ア 男女による比較

「とても」を回答した学生を男女別（男性 n = 430, 女性 n = 1, 317, 以下全ての項目について 5% の水準で有意に差があった）で比較すると、女性の回答の割合が 10 ポイント以上高かった項目は、次のような結果であった。

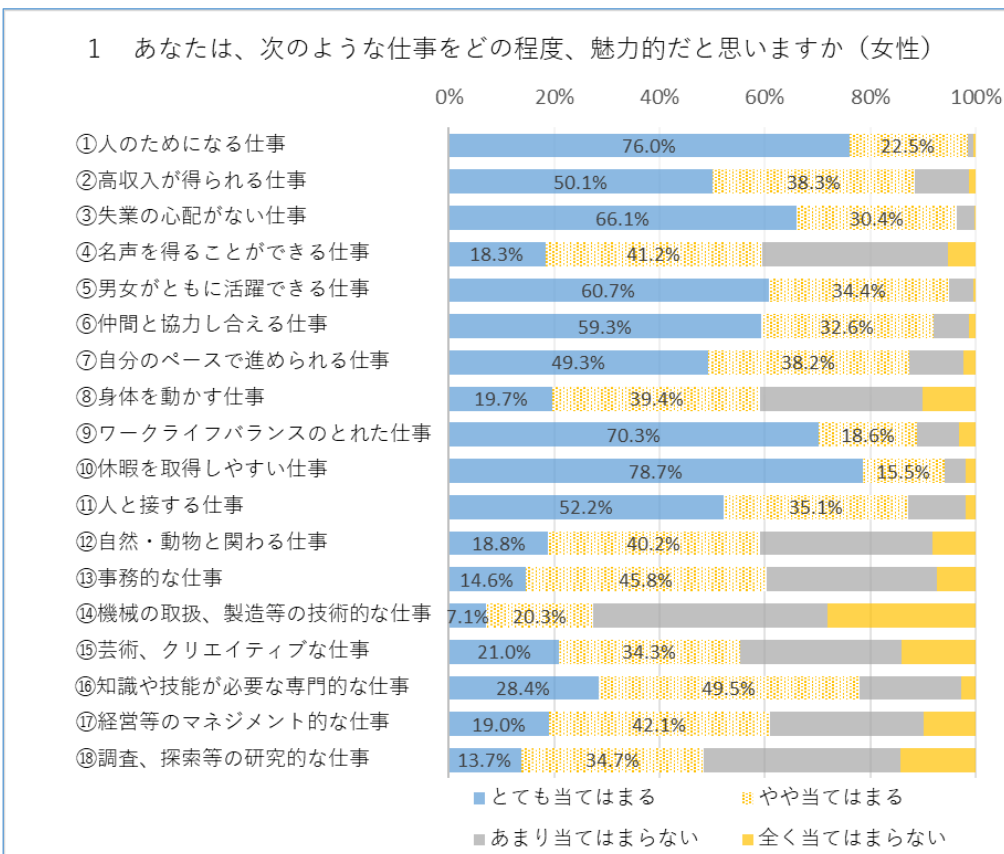
	男性 (n = 430)	女性 (n = 1, 317)	差
⑩休暇（産休，育休，有給休暇，長期休暇）を取得しやすい仕事	63.0%	78.7%	15.7
⑤男女平等で，男女がともに活躍できる仕事	47.0%	60.7%	13.7
⑥仲間と協力し合える仕事	47.4%	59.3%	11.9

肯定的な回答をした学生を男女別で比較した場合、有意な差は見られないが、「とても」のみで比較すると男女の差が明確である。この結果から「休暇の取得しやすさ」「男女平等である」などの労働条件の安定を、女性の方が強く求めていることが分かる。休暇の種類を分けて質問したわけではないが、休暇を取得しやすい仕事を望む割合が、女性の方が高い。また、「男女がともに活躍できる」「仲間と協力して取り組む」に対して、女性の方が肯定的な回答をする学生が多いことから、誰であっても個々の特性を生かして活躍できる、男女の差のない職場環境を強く求めているとも考えられる。男性であることや女性であることを生かして協力して仕事を進めていきたい、教員としての資質能力で不足する部分をお互い補い合って協力して仕事を進めていきたいということを、女性は求めているのではないかと推測できる。

【図2 「魅力ある仕事」について「男性」の回答の割合】



【図3 「魅力ある仕事」について「女性」の回答の割合】



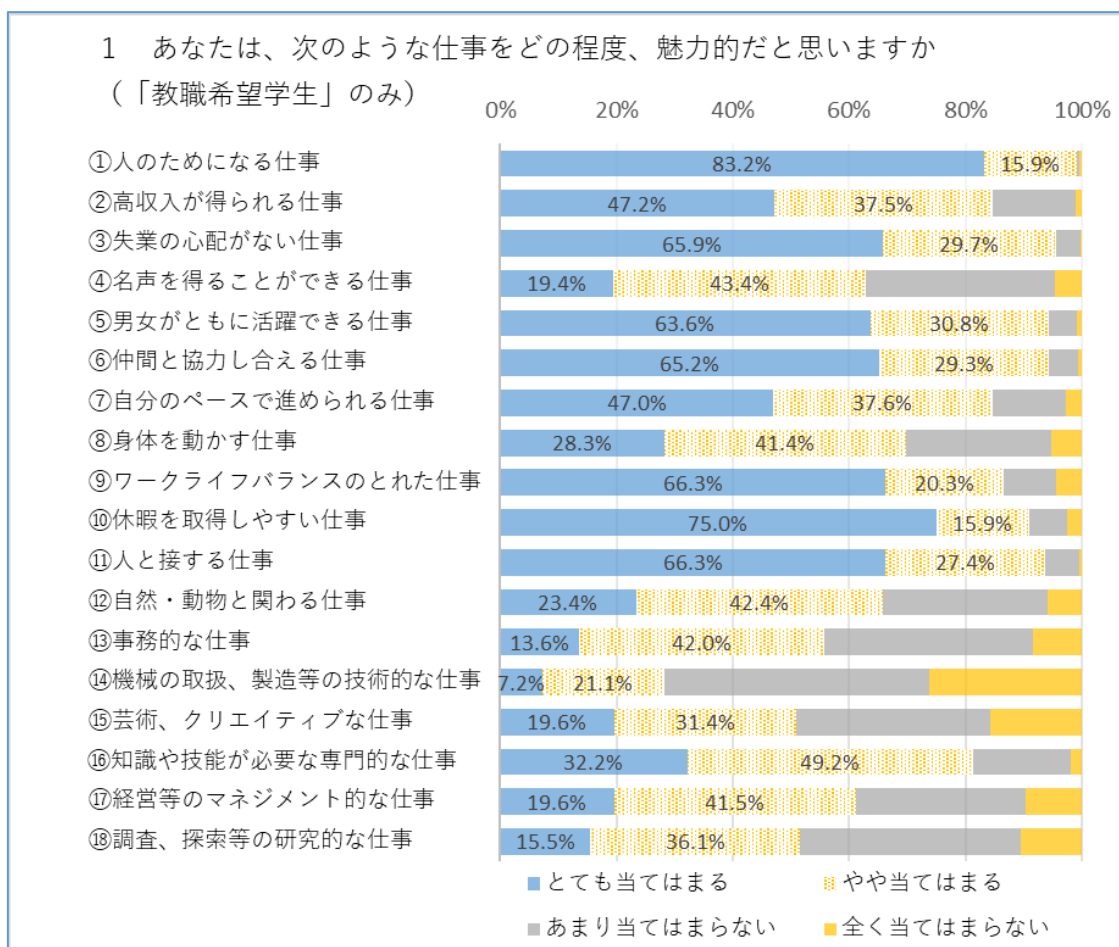
イ 教職希望の有無による比較

「とても」を回答した学生を、「教職希望学生」(n=792)と、「非希望学生」(n=443)で比較すると、5%の水準で有意に差があった項目は、次のとおりであった。

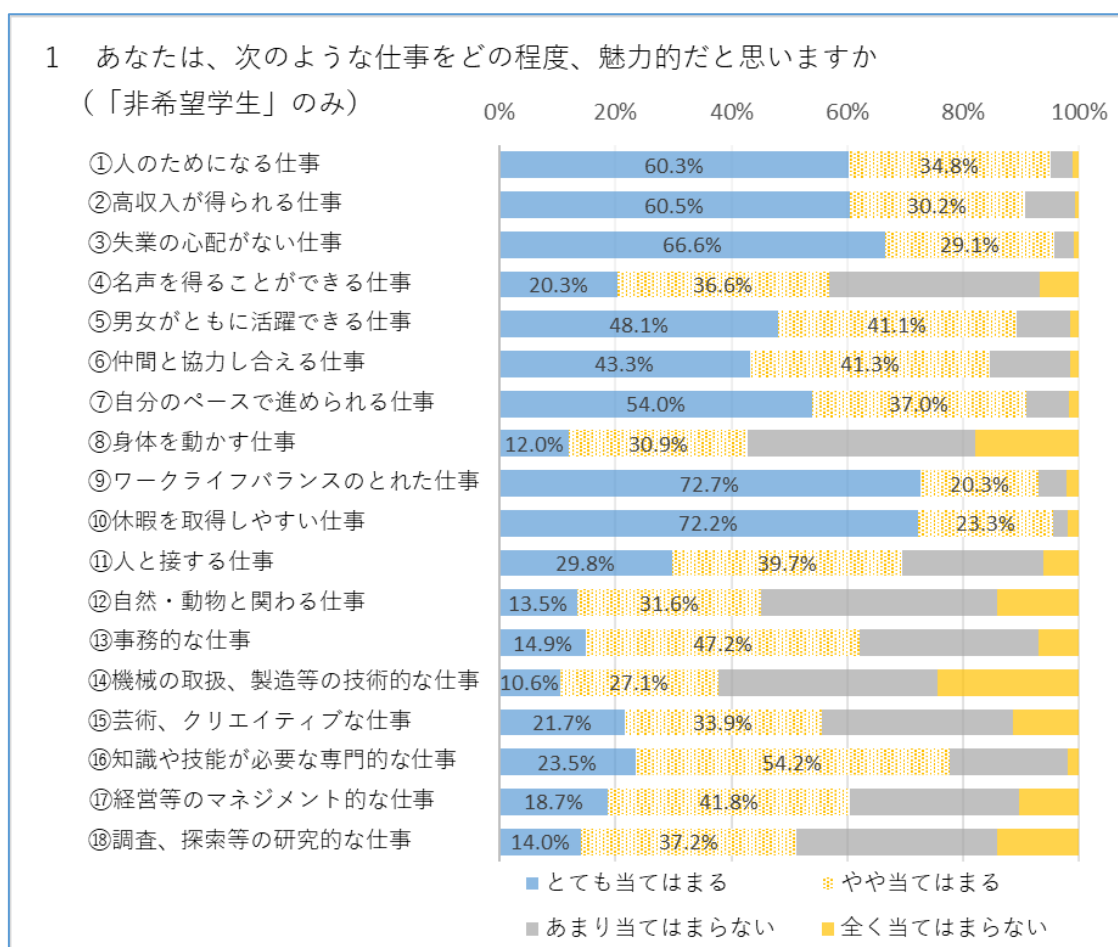
	全体 (n=1,781)	教職希望学生 (n=792)	非希望学生 (n=443)	差
⑪人と接する仕事	50.1%	66.3%	29.8%	36.5
①人のためになる仕事	73.7%	83.2%	60.3%	22.9
⑥仲間と協力し合える仕事	56.2%	65.2%	43.3%	21.9
⑧身体を動かす仕事	20.7%	28.3%	12.0%	16.3
⑤男女平等で、男女がともに活躍できる仕事	57.6%	63.6%	48.1%	15.5
②高収入が得られる仕事	51.0%	47.2%	60.5%	13.3

「教職希望学生」は、「⑪人と接する仕事」や「①人のためになる仕事」に魅力を感じると回答した学生が多いことから、教職という仕事を人と接する、人のためになる仕事として考えている学生が多いということが推測できる。また、「⑥仲間と協力し合える仕事」や「⑤男女平等で、男女がともに活躍できる仕事」など、同僚と平等に仕事がしたいと考える学生が魅力を感じるポイントであることも分かる。「⑧身体を動かす仕事」は、差があったものの全体として低いことから、学生はあまり魅力を感じていないと推測できる。

【図4 「魅力ある仕事」について「教職希望学生」の回答の割合】



【図5 「魅力ある仕事」について「非希望学生」の回答の割合】



肯定的な回答をした学生で、差があった項目は「⑪人と接する仕事」で、「教職希望学生」は93.7%であるのに対して、「非希望学生」は69.7%であった。本来は、コミュニケーションをとる仕事に対する魅力を問う設問であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で、物理的な接触を避けたとも考えられるため、全体的に低くなっていると推測できる。

「非希望学生」で、「とても」を回答した学生の上位項目は、次のような結果であった。

⑨個人の生活と仕事が両立でき、ワークライフバランスのとれた仕事	72.7%
⑩休暇（産休、育休、有給休暇、長期休暇）を取得しやすい仕事	72.2%
③失業の心配がない仕事	66.6%

ワークライフバランスや休暇を取得しやすい環境などの項目があり、学校での待遇が改善されれば、教職を希望する学生が増えていくのではないかと推測できる。

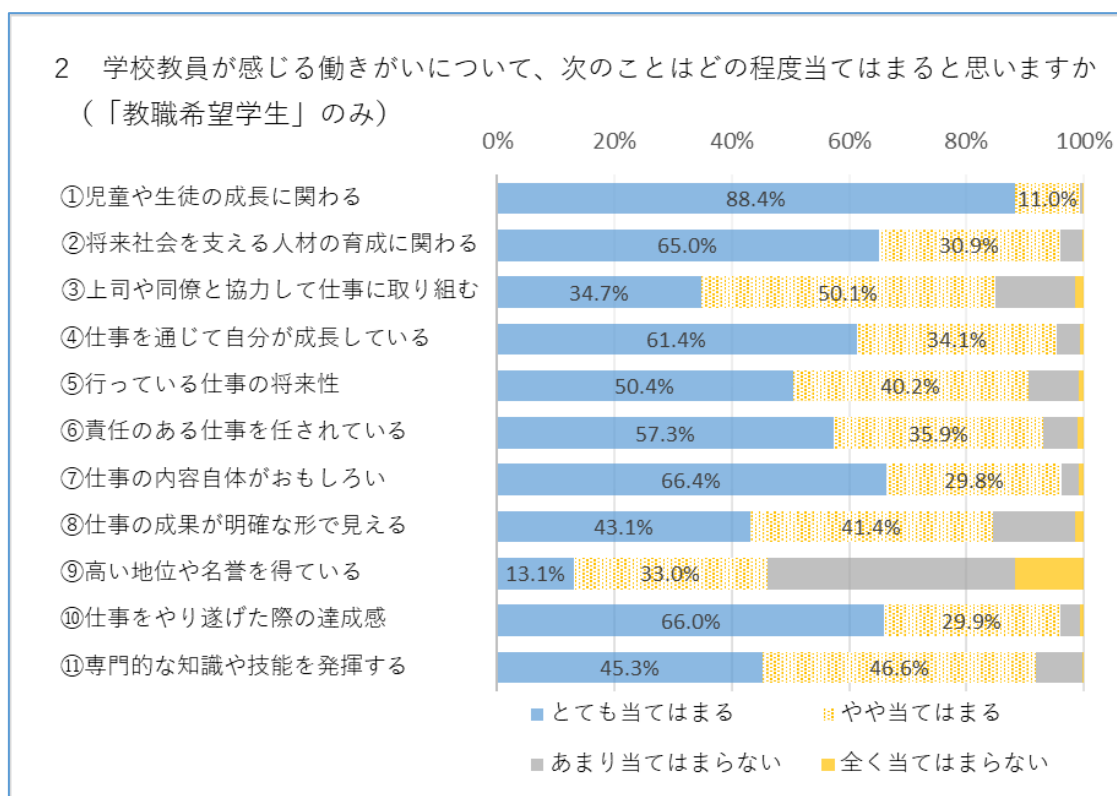
(2) 教職の働きがい（イメージ）

「学校教員の働きがい（イメージ）」（アンケート2番・全員回答）は、学生にとって実際に働いたことがあるわけではないため、学校教員の働きがいとして感じているイメージについて質問した。ここでは、教職という仕事に対してどのようなイメージをもっているか、また、その特徴は、教職志願者のみの傾向であるかなどについて明らかにするために、回答してもらった。学生が考える「学校教員の働きがい（イメージ）」について、「とても」を回答した学生で、「教職希望学生」、「非希望学生」を比較すると5%の水準で有意な差が見られる6項目は、次のような結果であった。

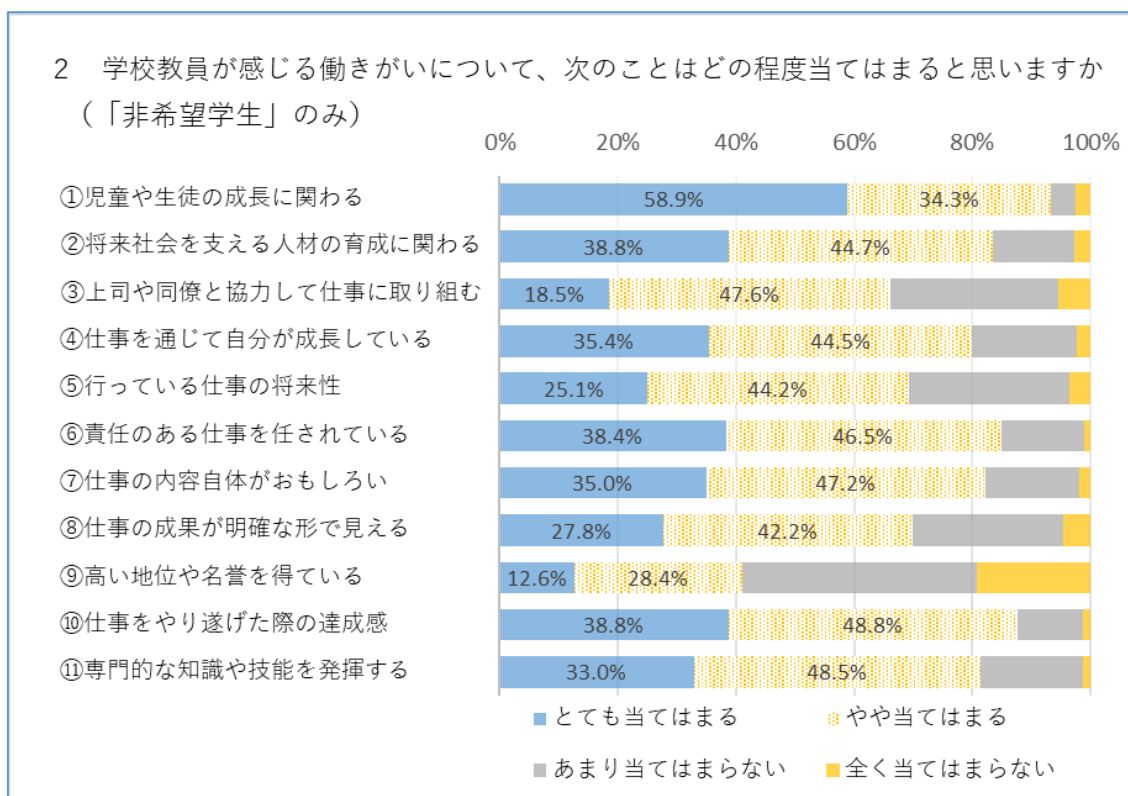
	全体 (n = 1,781)	教職希望学生 (n = 792)	非希望学生 (n = 443)	差
⑦仕事の内容自体がおもしろいと感じることができる	52.4%	66.4%	35.0%	31.4
①児童や生徒の成長に関わることができる	77.4%	88.4%	58.9%	29.5
⑩仕事をやり遂げた際の達成感を感じることができる	54.6%	66.0%	38.8%	27.2
②将来社会を支える人材の育成に関わることができる	54.4%	65.0%	38.8%	26.2
④仕事を通じて自分が成長していると実感できる	51.5%	61.4%	35.4%	26.0
⑤行っている仕事に将来性を感じることができる	38.9%	50.4%	25.1%	25.3

「教職希望学生」は、「子どもの成長」「将来性」のような教職の本質に関わる項目で、どれも高い割合である。反対に、「非希望学生」は学校教員の働きがいとして、「仕事のおもしろさ」「将来性」「達成感」をイメージしている割合が低いことが分かる。学校教員が子どもの成長や将来性、達成感によって、働きがいを感じることができるという魅力をアピールすることで、負のイメージを払拭できるような環境を整えていく必要がある。

【図6 「学校教員の働きがい（イメージ）」について「教職希望学生」の回答の割合】



【図7 「学校教員の働きがい（イメージ）」について「非希望学生」の回答の割合】



なお、愛知教育大学教職の魅力共創プロジェクト「教職の魅力に関するアンケート調査報告にあたって（暫定版）」^{*1}に、『教職は働きがいを感じられる職業だと広く見なされており、特に人を育てること、責任ある仕事を任されていること、専門性を發揮できることに対して学校教員が働きがいを感じていると考えられていることが分かった。』と記載されている。「教職希望学生」で、「①児童や生徒の成長に関わることができる」について、「とても」を回答した割合は88.4%と高い。しかし、「②将来社会を支える人材の育成に関わることができる」は65.0%、「⑥責任のある仕事を任されていると実感できる」は57.3%、「⑩仕事を行う上で専門的な知識や技能を發揮することができる」は45.3%で、やや割合が低い。児童や生徒との関わりを生かしながら、人間を育成するという教員の専門性や自覚を高めるような講義展開が大学に求められる。

(3) 学校教員に求められる資質能力

「学校教員に求められる資質能力」（アンケート3番・全員回答）では、求められる資質能力であると考えられるものを質問項目として挙げている。それをを用いて、学生が学校教員の資質能力として何を身に付けていくべきであると感じるか、その特徴は教職志願者のみであるか、男女で差があるか、教育実習を受けたことで変化はあるかについて明らかにするために回答してもらった。なお、23番か

*1 「教職の魅力に関するアンケート調査報告にあたって（暫定版）」

https://www.aue-cocreate.jp/wp-content/uploads/2021/03/preliminaryreport_ver2.pdf

文部科学省の「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」の教職の魅力向上に関する取組の一つとして、教職のイメージ、教員が感じる働きがい、教員が抱える仕事のストレスなど「教職の魅力に関するアンケート調査」を令和2年10月から令和3年1月までに実施したもの。愛知県内の中高生を対象としたマークシートによる調査、大学の附属学校の保護者や教職員、大学の学生を対象としたウェブアンケート調査、クロス・マーケティング社の協力による一般の成人を対象とした全国規模のインターネットによる調査を実施し、7,000名近くのデータを基に分析を行っている。

ら 25 番までは「愛知県公立学校教員採用選考試験について」*2に記載されている内容の一部である。

「とても」を回答した学生で割合の高かった項目は「①授業が分かりやすく、児童や生徒の好奇心を刺激すること」(86.0%)、「⑫児童や生徒間のいじめや問題行動に対応すること」(82.6%)であり、授業やいじめ、問題行動等についての指導力を資質能力として考えている学生が多いことが分かった(資料1P.25参照)。

ア 男女による比較

「とても」を回答した学生を男女別で比較すると、5%の水準で有意に差があったもので、男性が10ポイント以上低かった7項目は、次のとおりであった。

	男性 (n=430)	女性 (n=1,317)	差
⑮児童や生徒に挨拶や感謝の気持ちなどの礼儀や思いやりを形成すること	62.6%	81.7%	19.1
⑩児童や生徒への深い愛情があること	59.8%	78.8%	19.0
⑭不登校の児童や生徒に対応すること	57.7%	75.2%	17.5
⑯児童や生徒に熱心に向き合うこと	67.9%	84.7%	16.8
⑫同僚の教員や上司からの意見やアドバイスに耳を傾ける姿勢があること	46.0%	61.4%	15.4
⑪児童や生徒の心理や発達段階の特徴等への理解があること	65.3%	79.7%	14.4
⑬障害に応じた支援ができること	67.2%	79.4%	12.2

「礼儀や思いやり」「深い愛情」「熱心に向き合う」などの児童生徒に対する姿勢・献身性や、「不登校」「心理や発達段階の特徴への理解」など児童生徒の心理や成長に関わる知識等について、女性の割合は75%を超えている。女性はこれらの項目について、教職の資質能力として求められていると感じている学生が多いことが分かる。

一方、男性は児童生徒に対する姿勢・献身性や児童生徒の心理や成長に関わる知識について、資質能力として女性ほど必要であるとは考えていない傾向がある。また、上記の表以外でも全ての項目において、「とても」を回答した学生の割合は、女性より低くなった。求められている資質能力が少ないと考えているため、「⑫同僚や上司からの意見に耳を傾けて、協力体制を整えていく必要がある」と回答した学生の割合が、「女性」よりも低い数値となっているのかもしれない。この結果から、女性の方が「他から学ぶことが大切だと感じている」「協調性を大切にしている」と推測され、同僚等の意見に耳を傾けて、協力体制を整えていく必要があると考えられる。学生の考えるイメージから、現在、働

*2 愛知県公立学校教員採用選考試験について

<https://www.pref.aichi.jp/site/kyoinsaiyou/>

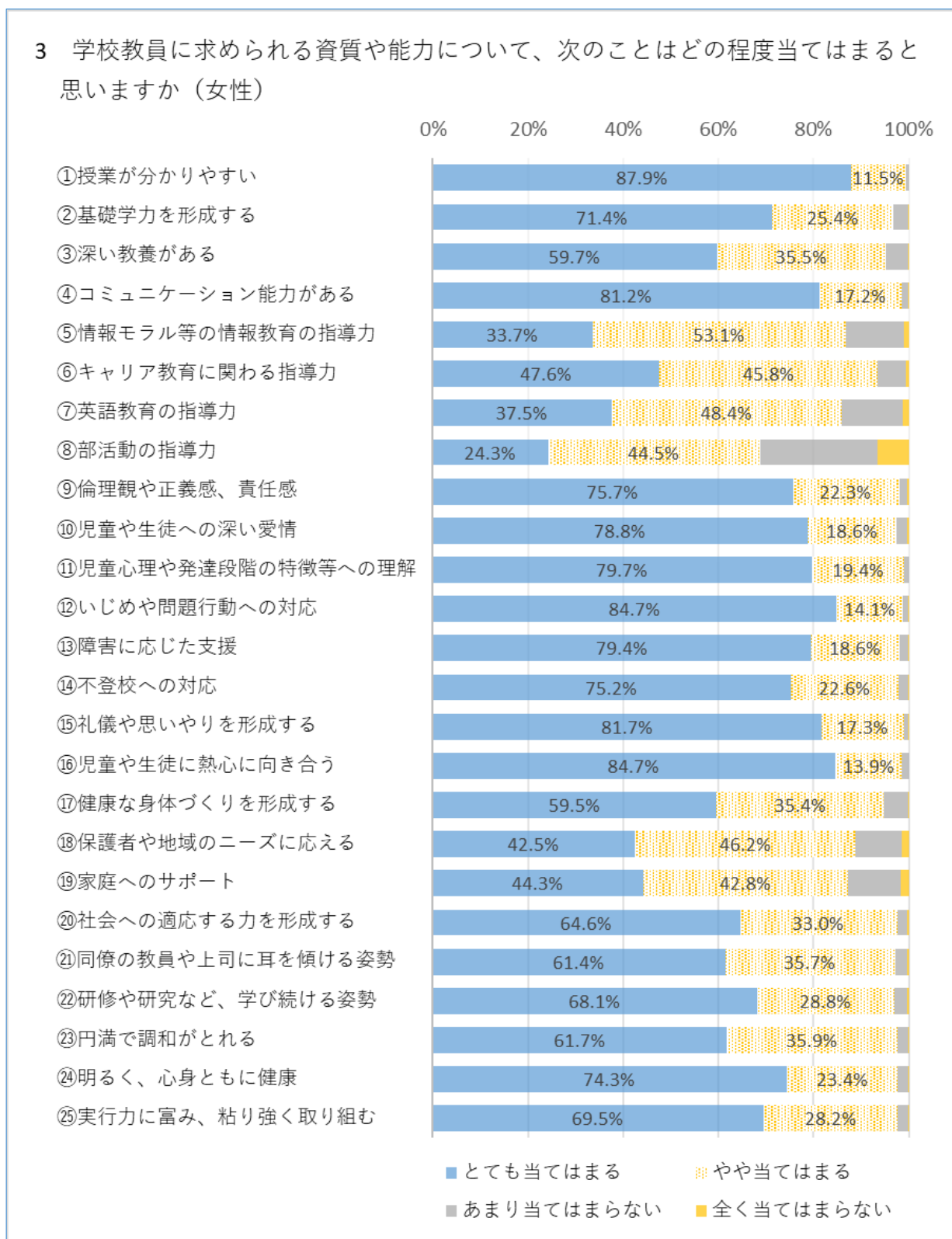
愛知が求める教師像

愛知県では「自らを高めること」と「社会の担い手となること」を基本とした教育を進めるため、次のような教師像を求めています。

- 1 広い教養と豊富な専門的知識・技能を備えた人
- 2 児童生徒に愛情をもち、教育に情熱と使命感をもつ人
- 3 高い倫理観をもち、円満で調和のとれた人
- 4 実行力に富み、粘り強さがある人
- 5 明るく、心身ともに健康な人
- 6 組織の一員としての自覚や協調性がある人

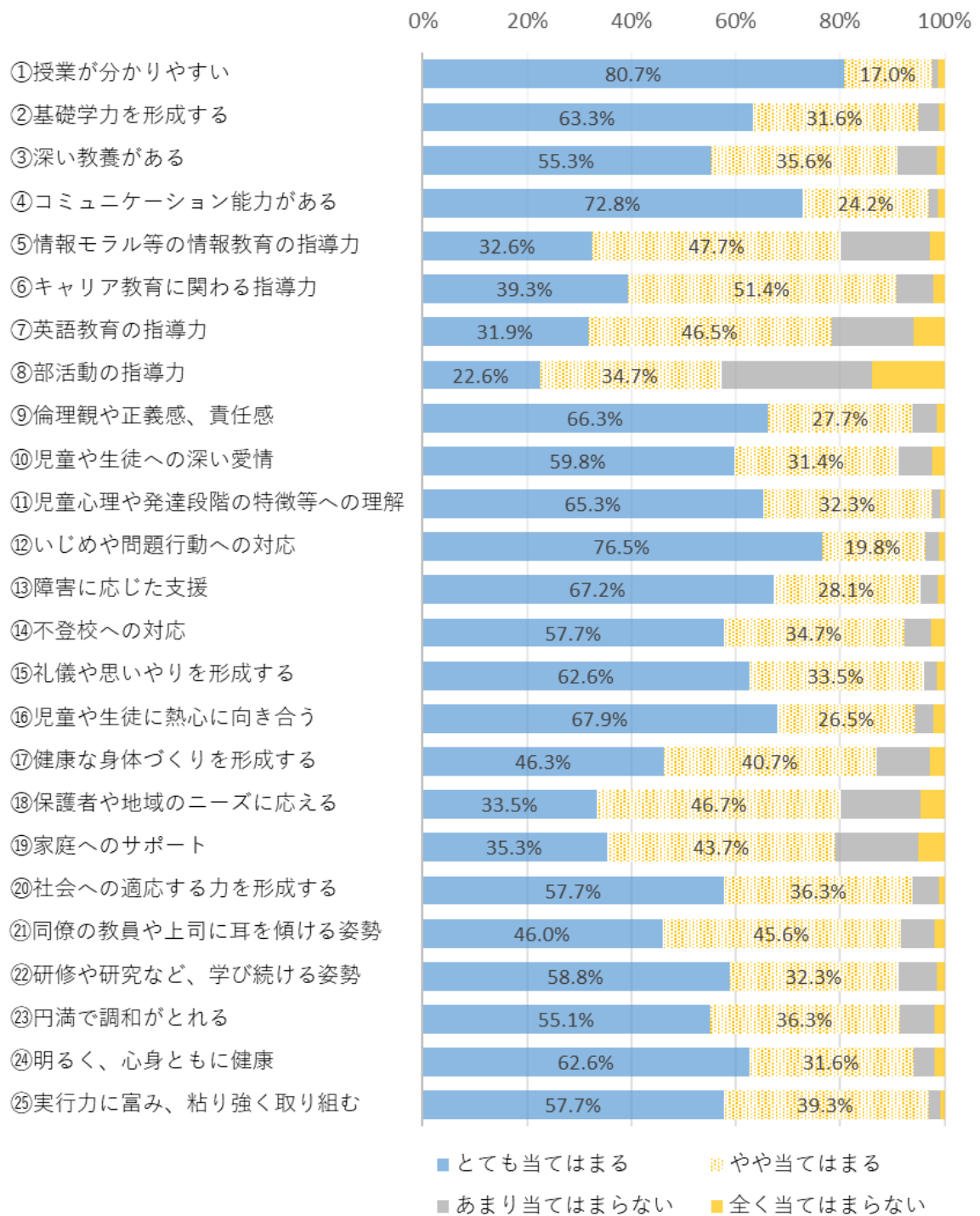
いている男性教員は、このことについて意識して仕事に協力して取り組んでもらいたい。また、組織を運営する管理職は、男女の考え方を踏まえて、児童生徒に対して、子どもに対する接し方、献身性をより高める手だてを講じることや協力体制を整えていくなど、何ができるか考えていく必要性があると感じた。

【図8 「学校教員に求められる資質能力」について「女性」の回答の割合】



【図9 「学校教員に求められる資質能力」について「男性」の回答の割合】

3 学校教員に求められる資質や能力について、次のことはどの程度当てはまると
 思いますか（男性）



イ 教育実習を受けた学生との比較

教育実習を受けた学生（n=87）において、特筆すべき点として、肯定的な回答をした学生の割合が100%となった項目は、次のとおりであった。

	全体 (n=1,781)	教育実習を受けた (n=87)
①授業が分かりやすく、児童や生徒の好奇心を刺激すること	97.7%	100.0%
④コミュニケーション能力があること	97.0%	
⑪児童や生徒の心理や発達段階の特徴等への理解があること	97.6%	
⑮児童や生徒に挨拶や感謝の気持ちなどの礼儀や思いやりを形成すること	96.1%	
⑳変わりゆく社会で適応する力を形成すること	94.0%	

「授業の分かりやすさ」「コミュニケーション能力」等、全体の結果も数値が高いものばかりであったが、教育実習を経験したことによって、実感をもってこれらが学校教員に必要な資質能力であると感じたのではないかと推測される。また、教育実習を受けた学生と全体を比べて、「とても」を回答した学生で差があった項目は、次のとおりであった。教育実習を経験したことで、研修や研究など、学び続ける姿勢が必要であることを実感したのではないかと推測される。

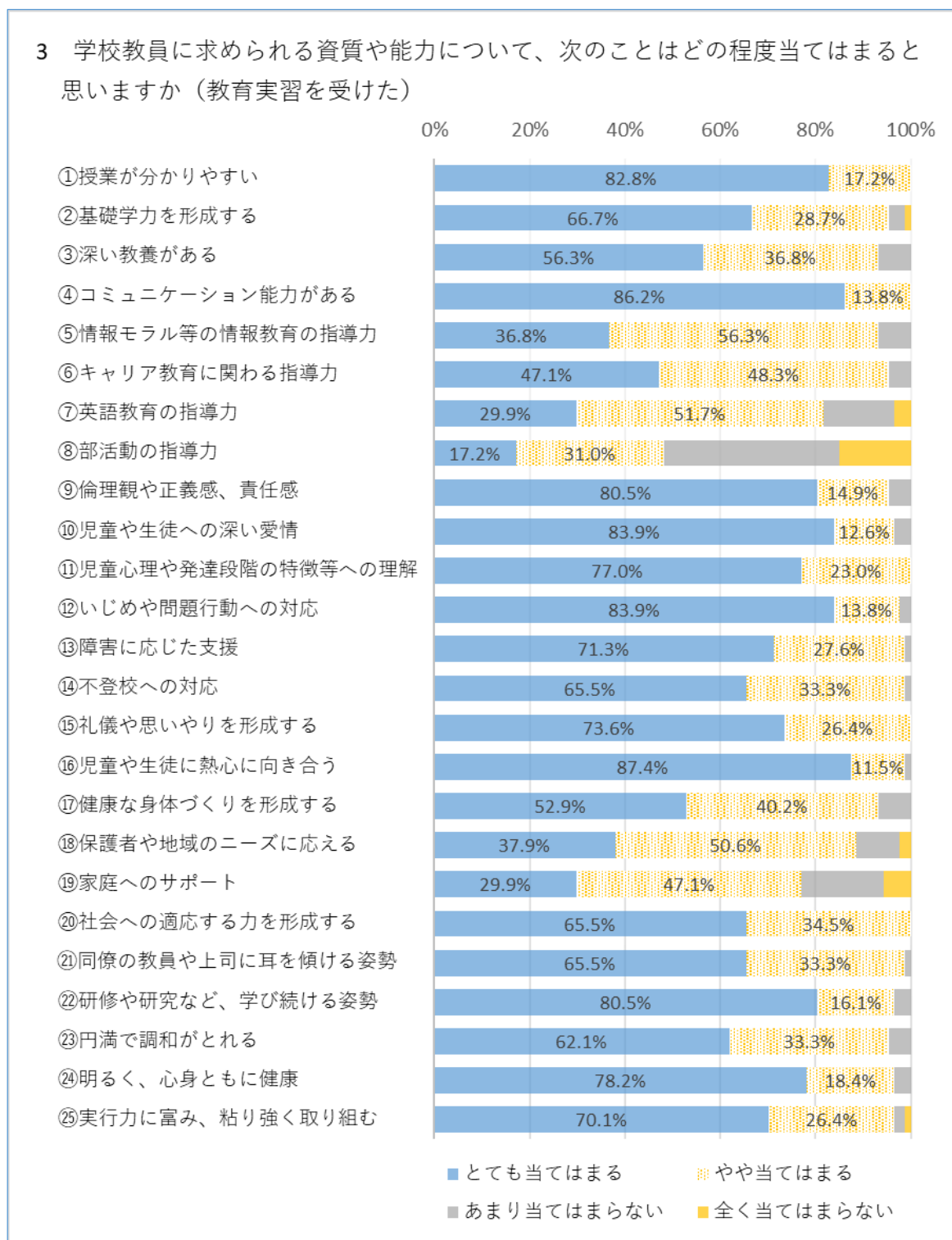
	全体 (n=1,781)	教育実習を受けた (n=87)
②研修や研究など、教員になってからも学び続ける姿勢があること	66.0%	80.5%

それに対して、教育実習を受けた学生で、肯定的な回答をした学生の割合が全体より低くなった項目は、次のとおりであった。

	全体 (n=1,781)	教育実習を受けた (n=87)
⑧部活動の指導力があること	65.5%	48.2%

部活動の指導力について、教育実習の中では見えてこなかった部分もあったのではないかと、または、外部への委託の動き等もあり、見えていたが指導力は必要ないと判断したのではないかと推測される。

【図 10 「学校教員に求められる資質能力」について「教育実習を受けた」学生の回答の割合】



ウ 教職希望学生の特徴

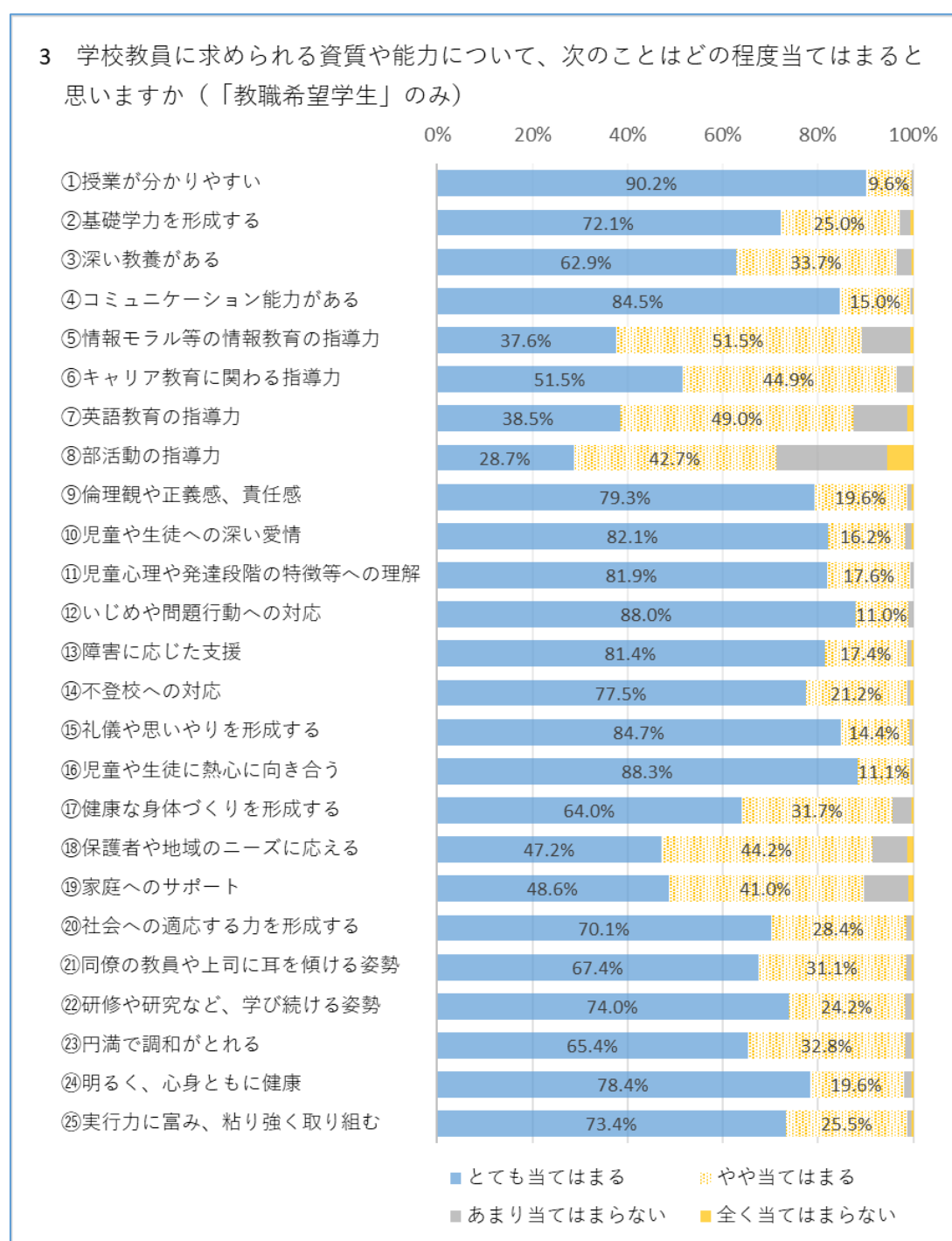
「教職希望学生」（n=792）で、「とても」を回答した割合が低かった項目は、次のとおりであった。

⑧部活動の指導力があること	28.7%
⑤ICTの活用やプログラミング教育、情報モラルを含めた情報教育の指導力があること	37.6%
⑦英語教育の指導力があること	38.5%

⑱保護者や地域・社会のニーズに応えること	47.2%
⑲家庭へのサポートができること	48.6%

「部活動指導」「ICTの活用等の情報教育の指導力」「英語教育の指導力」「家庭へのサポート」等について、資質能力として必要であると判断している学生が少ない。特に、部活動指導は否定的な回答が多く、資質能力として必要はないと判断したと考えられる。また、担任がしなくてはならないものと思っていないとも推測できる。ただし、分業することが可能なものが多く、外部人材等を活用することもできるため、教育委員会としてその仕組みを作り、人的環境を整えていく必要もあるのではないかと考える。

【図 11 「学校教員に求められる資質能力」について「教職希望学生」の回答の割合】



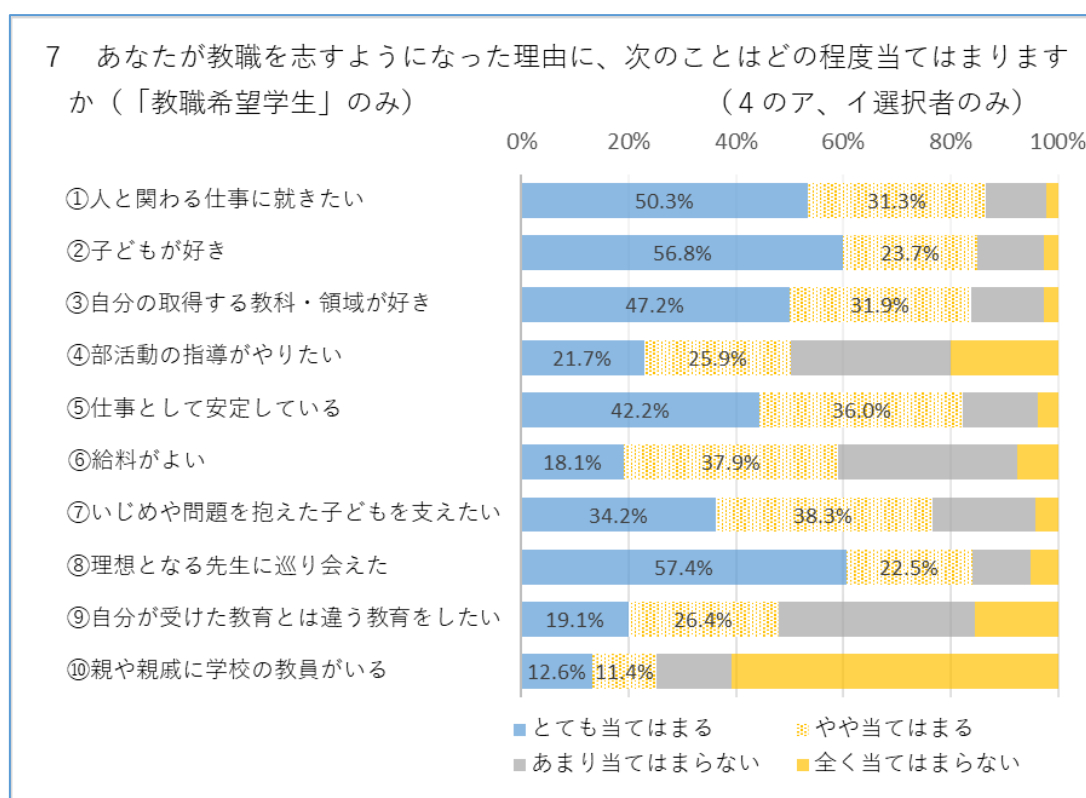
(4) 教職を志すようになった理由

「教職を志した理由」(アンケート7番)について、希望を迷っている「不確定学生」(n=386)にはどのような特徴があるか、男女で差があるかについて明らかにすることで教職の魅力として、どのようなものがあるかを考えていくために、「教職希望学生」と「不確定学生」を選択した学生に回答してもらった。

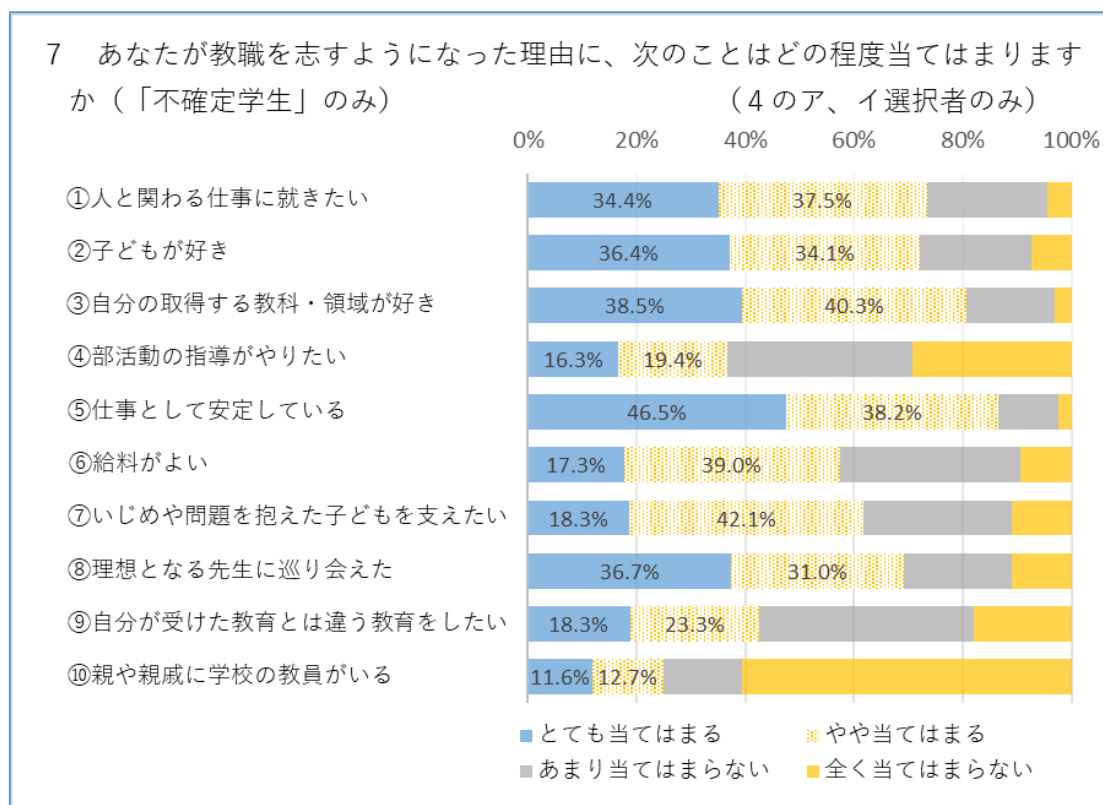
「とても」を回答した学生で「教職希望学生」と「不確定学生」で比較すると、5%の水準で有意に差があった上位3項目は、次のとおりであった。

	教職希望学生 (n=792)	不確定学生 (n=386)	差
⑧理想となる先生に巡り会えたから	57.4%	36.7%	20.7
②児童や生徒が好きだから	56.8%	36.4%	20.4
①人と関わる仕事に就きたいから	50.3%	34.4%	15.9

【図12 「教職を志した理由」について「教職希望学生」の回答の割合】



【図 13 「教職を志した理由」について「不確定学生」の回答の割合】



「教職希望学生」の方が、全ての項目で「とても」を回答した割合が多い。特に、「⑧理想となる先生に巡り会えたから」の割合が特に多いことから、自分が出会ったよいと思った教師をモデルにしていることが分かる。日々の生徒との関係が教員の魅力につながっていると考えることができるため、強い動機となり得る。また、児童や生徒が好きであるから教職を志しているなど、教育の本質的な部分で教職に就きたいと考えている学生が多いことも分かる。

さらに、「⑧理想となる先生に巡り会えたから」と回答した学生で、「教職に就きたいと思った時期」（アンケート5番）（ $n=597$ 、「教職希望学生」： $n=455$ 、「不確定学生」： $n=142$ ）から、教職を志すようになったきっかけがいつであるかについて推測すると、次のような結果であった。

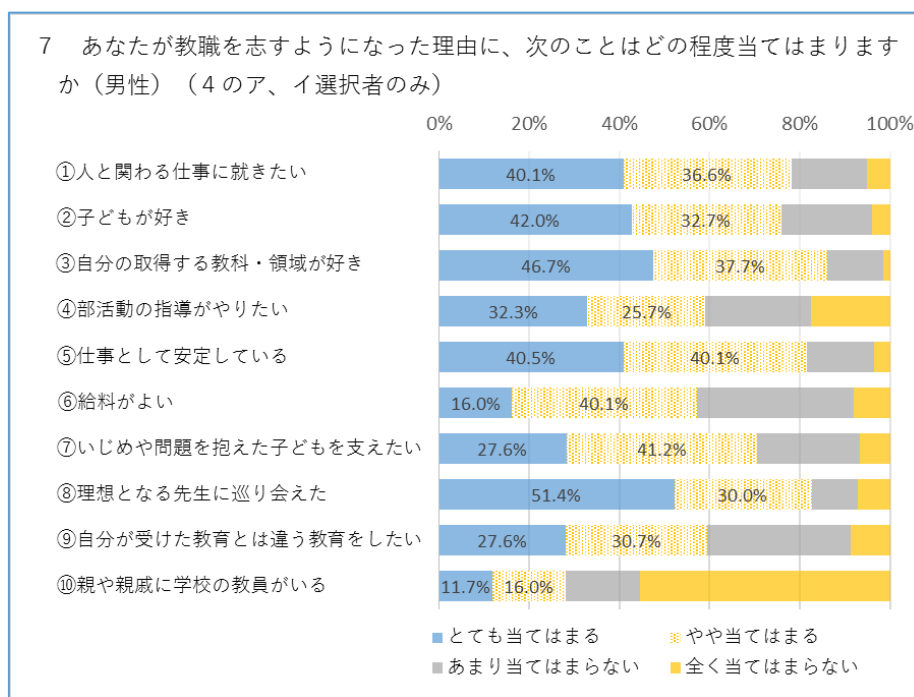
	教職希望学生 ($n=455$)	不確定学生 ($n=142$)	全体 ($n=597$)
小学生より前	1.8%	0.0%	1.3%
小学生の頃	30.1%	18.3%	27.3%
中学生の頃	36.3%	34.5%	35.8%
高校生の頃	27.3%	35.9%	29.3%
大学生になってから	4.6%	11.3%	6.2%

「教職希望学生」は、中学生の頃がいちばん多く、その時期に理想的な先生に出会えたことで、教職に就きたいと考えるようになったと推測できる。また、小学生の頃、小学生より前も含めると「教職希望学生」では68.2%、「不確定学生」では52.8%となり、幼少期から中学生の頃に、教員になりたいという思いをもちはじめ、大学生になっても教職に就きたいという固い信念のようなものが感じられる。

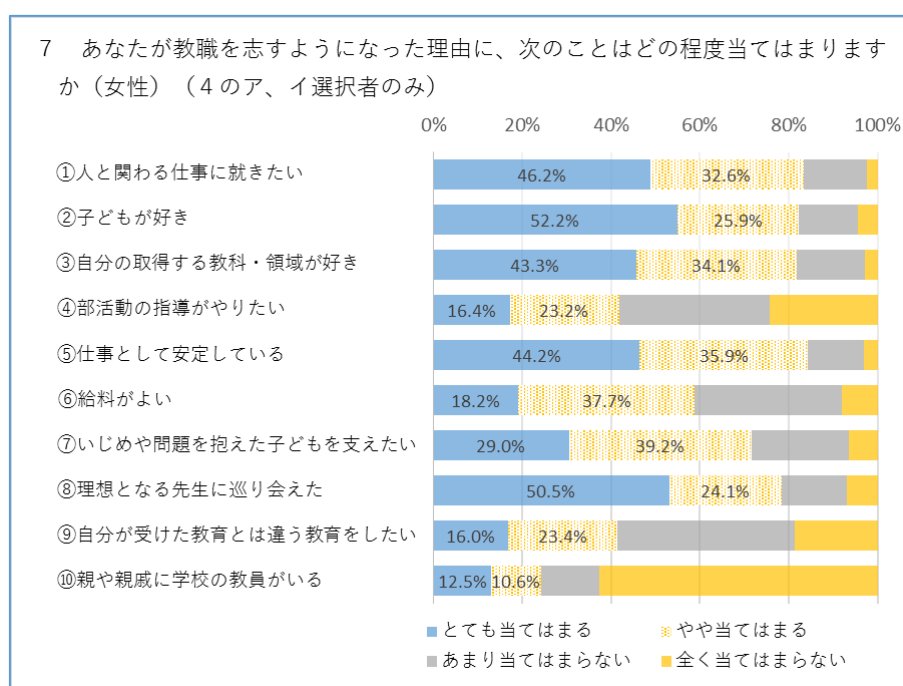
また、男女別（男性 n=257, 女性 n=899）で比較すると、「とても」を回答した学生で、5%の水準で有意に差があるものは、次のとおりであった。

	男性 (n=257)	女性 (n=899)	差
④部活動の指導がやりたいから	32.3%	16.4%	15.9
②児童や生徒が好きだから	42.0%	52.2%	10.2

【図14 「教職を志す理由」について「男性」の回答の割合】



【図15 「教職を志す理由」について「女性」の回答の割合】



「(3) 学校教員に求められる資質能力」において、部活動の指導力について必要性を感じている学生が少ないと推測できたが、教職を志す理由においても、「女性」は部活動の指導がやりたいと回答した学生は少なく、部活動の指導が目的で教職に就きたいと考えているわけではないことが分かる。

また、男女ともに「とても」と回答した割合の低かった項目で、「⑥給料がよいから」があった。これは、「給料がよいこと」は、教職を志すきっかけとして重視していない学生が多いことが分かる。逆に、給料を重視する学生は教員を希望していないとも言える。さらに、給料が仕事に対して見合っていないと考えている場合もあると推測できる。

(5) 不安に感じていること、負担に思っていること

「教職を志すに当たり、不安に感じていること、負担に思っていること」(アンケート8番)について、不安や負担感、教育実習を受けたことで大きな変化があったかについて明らかにすることで、どのようにすると不安を取り除くことができるか、負担感を軽減していくことができるかを考えていくために、「教職希望学生」と「不確定学生」を選択した学生に回答してもらった。

肯定的な回答をした学生の上位項目は、次のような結果であった。ただし、「⑭教員採用試験に合格できるか」を除く。

①授業がきちんとできるか	88.5%
⑧保護者とどのようにして向き合っていけばよいか	87.8%
⑨要望や苦情への対応ができるか	87.0%
⑤児童や生徒間のいじめや問題行動に対応できるか	86.1%
⑩仕事が忙し過ぎないか	82.3%

教職を希望する学生が、現在、不安に思っていることとして、「授業がきちんとできるか」「保護者との対応」「いじめや問題行動」などを挙げている。

それに対して、「教育実習を受けた」と選択した学生で、肯定的な回答をした学生の上位項目は、次のような結果であった。ただし、「⑭教員採用試験に合格できるか」を除く。

⑩仕事が忙し過ぎないか	84.5%
⑨要望や苦情への対応ができるか	84.1%
⑧保護者とどのようにして向き合っていけばよいか	83.1%
⑤児童や生徒間のいじめや問題行動に対応できるか	80.3%

教育実習を受けることで、「①授業がきちんとできるか」「②教師としての適性があるか」「③おおぜいの人の前で話すことができるか」「⑥児童や生徒とどのようにして向き合っていけばよいか」について、「とても」の回答の割合は全体として低くなった。

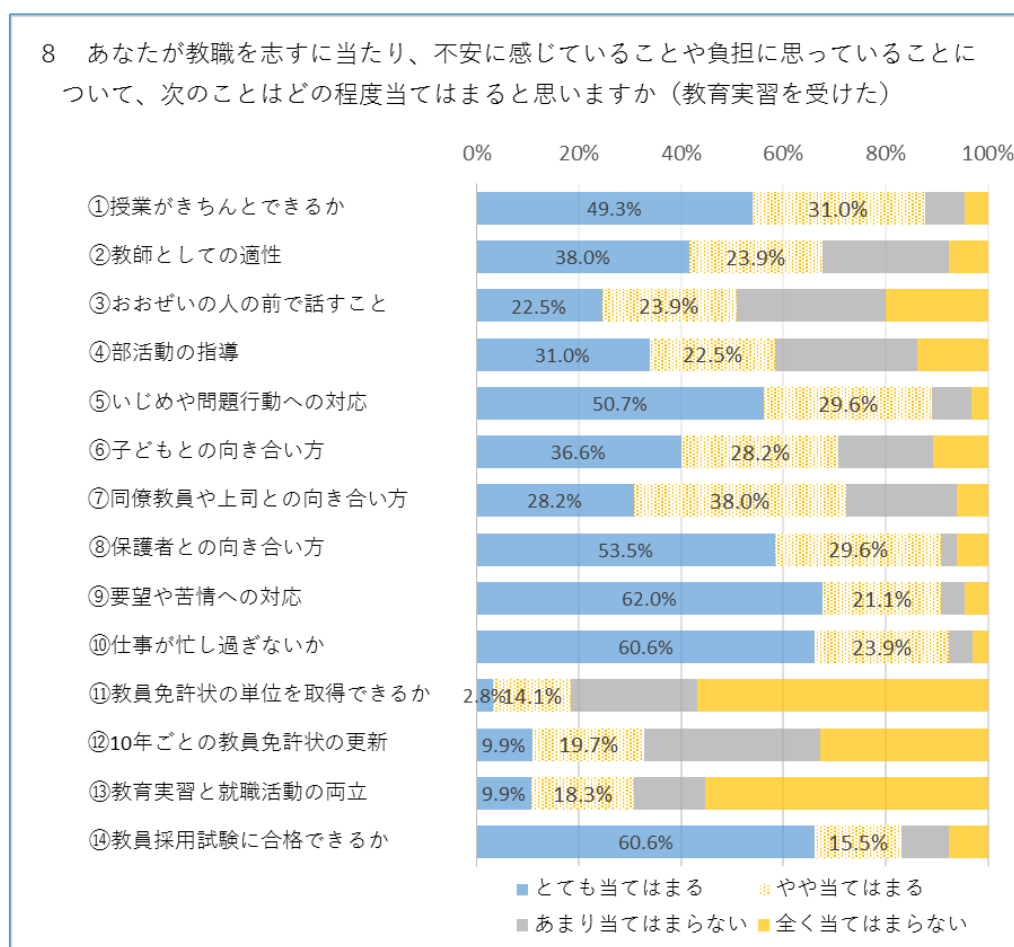
	教育実習を受けた (n=87)	全体 (n=1,179)
①授業がきちんとできるか	49.3%	62.9%
②教師としての適性があるか	38.0%	57.3%
③おおぜいの人の前で話すことができるか	22.5%	42.1%
⑥児童や生徒とどのようにして向き合っていけばよいか	36.6%	46.5%

この結果から、不安に感じていることは、教育実習等の体験をすることで、解消されるものも多いのではないかと考える。また、教育実習という大きな枠組みでなくてもインターンシップの一環として、教育現場での体験や情報収集を行うなど工夫することで、不安に感じていることが解消されるの

ではないかと考える。そのような体験を増やすことで、考えていた教員像と現実とのギャップを減らすことができるのではないかと考える。

また、授業などへの不安が減った反面、「⑩仕事が忙し過ぎないか」について、不安を感じている割合が変わっていないことが気になった。教育実習を体験し、仕事が忙し過ぎるという印象は払拭できていないし、より現実的に忙しさを感じたのかもしれない。教員の魅力向上のために教員の仕事量・負担の軽減は喫緊の課題であると言える。

【図 16 「不安に感じていること、負担に思っていること」について
「教育実習を受けた」学生の回答の割合】



(6) 教職志望を取りやめた理由

「教職希望を取りやめた理由」（アンケート 10 番）について、教職の希望をやめてしまった「変更学生」に対して、男女で差があるか、志望を取りやめた理由について明らかにすることで、どのように改善していけば、教職志望を取りやめないかについて考えていく。

男女別で比較すると、「とても」を回答した学生の割合の高かった項目は、次のような結果であった。

男性

⑭教育実習が大変だったから（実施者のみ、n=9）	44.4%
①他にやりたい仕事が見つかったから	41.9%
⑨休日出勤や長時間労働のイメージがあるから	32.6%

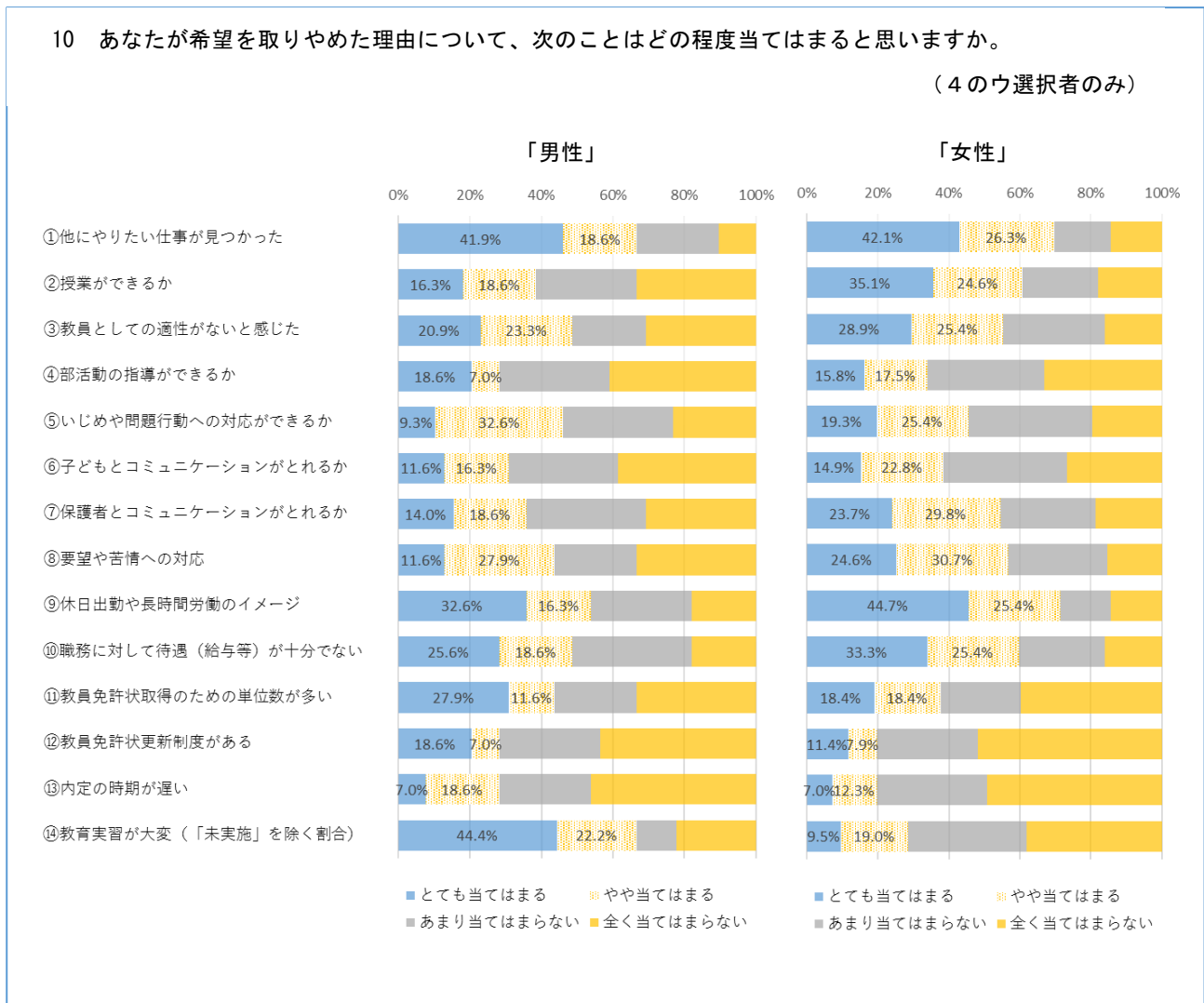
女性

⑨休日出勤や長時間労働のイメージがあるから	44.7%
①他にやりたい仕事が見つかったから	42.1%
②授業ができるか不安だから	35.1%
⑩職務に対して待遇（給与等）が十分でないから	33.3%

「⑨休日出勤や長時間労働のイメージがあるから」「①他にやりたい仕事が見つかったから」はどちらも上位に入っている。

ただし、「①他にやりたい仕事が見つかったから」において肯定的な回答をした学生で、アンケート1番の、「魅力のある仕事」の「①人のためになる仕事」を回答した学生は78.3%であった。全体の割合(73.7%)と大きな差がないことから、教職の魅力として、「①人のためになる仕事」はあまり当てはまらないと考える。

【図17 「教職希望を取りやめた理由」についての回答の割合】



ア 自由記述での単語の出現回数

「教職自体または教職を取り巻く環境の何が変われば、あなたは教職により魅力を感じますか（任

意回答)」(アンケート 13 番, n=440) について, 学生にとって何が変わればより教職に魅力を感じるのか, 具体的に何がいちばん思いつくイメージであるかを明らかにするために, 自由記述で回答を求めた。

【表 3 自由記述の単語の出現回数】

単語	出現回数	単語	出現回数
仕事	81	ブラック	16
部活動, 部活	71	対応	16
給料, 給与, 賃金	63	業務	13
労働時間, 勤務時間	59	確保	11
指導	46	軽減	11
環境	43	顧問	11
残業	36	多忙	11
授業	31	必要	11
量	30	いじめ	10
時間外労働, 長時間労働, 残業時間	30		
改善	28	単語	出現回数
学校	26	教員	97
休み, 休暇, 休日	25	教師	48
保護者	24	魅力	46
労働環境	22	教職	41
残業代, 残業手当	21	教育	28
負担	21	生徒, 児童	26
外部	17	子ども, 子供	22
		先生	20

アンケート 10 番の「⑨休日出勤や長時間労働のイメージがあるから」について, 自由記述にも「労働時間, 勤務時間」「時間外労働, 長時間労働, 残業時間」「ブラック」「多忙」という記述が見られたため, 労働条件が教職希望を取りやめた理由として大きいと考えられる。そのため, このイメージを払拭することから始める必要がある。

また, 「女性」の「②授業ができるか不安だから」について, さきほども記述したが, 教育実習やインターンシップ等, 学校と関わる機会を増やしていくとよいのではないかと考える。男性の「⑭教育実習が大変だった」が上位にあることも踏まえて, 大学の選択科目としてサポートする形で, 学校現場を知る機会を増やしていくとよいのではないかと考える。

4 おわりに

自由記述から「部活, 部活動」「給料, 給与, 賃金」「労働時間, 勤務時間」「残業」「時間外労働, 長時間労働, 残業時間」「残業代, 残業手当」などの負の意見が多く見られるが, 教育実習(インターンシップを含む)等を受けていない学生が 90% 近くいることを踏まえると, これらの記述は, 教職に対するイメージからきているものと考えられる。この「不安や負担感>魅力(不安や負担感が魅力を

上回っている)」の状況から、どのように改善することで、魅力が上回るかを上記アンケート結果から検討し、次のようなことを提案する。

一点目は、働き方に対する環境の整備である。「多忙である」「ブラックである」のイメージがあり、教職に魅力を感じたとしても、希望を取りやめる学生もいた。また、給与待遇が仕事に見合っていないと感じている学生もいた。学校での人員を増員したり、部活動の指導では外部人材を活用したりすることで、教職への負担を分散し、少しでも軽減できるよう、労働条件の整備を行政としても取り組んでいく必要がある。

二点目は、学生が学校現場を見たり体験したりする機会を増やしていくことである。教育実習を受けることで、教職について知ることができ、さまざまな不安感を払拭することのできた学生が多くいた。教育実習でなくても、体育大会等の学校行事でボランティアとして参加したり、授業見学として大学の長期休業中に参加したりできる大学もある。今後は、スクールサポートシステムやICT支援員等、学校が必要としている外部人材を各学校で募集し、大学においてもインターンシップの一環として、積極的に学校現場へ参加できるようになるとよい。

三点目は、現在教職に就いている人たちへの働きかけである。このアンケートから、男女による考え方や価値観の差が大きいこと、部活動の指導は資質能力として必要と考えておらず、そもそも部活動の指導に対して不安を感じていないことなどが分かる。このような結果であることを踏まえて、学校現場で若手の育成に努めていく必要がある。

また、「理想の先生と巡り会う」ことで教職に就きたいと考えている学生がかなり多くいた。学校の先生たちが生き生きと授業を行い、子どもに寄り添い支えてくれる先生の姿を見ることで、魅力ある職業であると感じることに繋がるのではないだろうか。

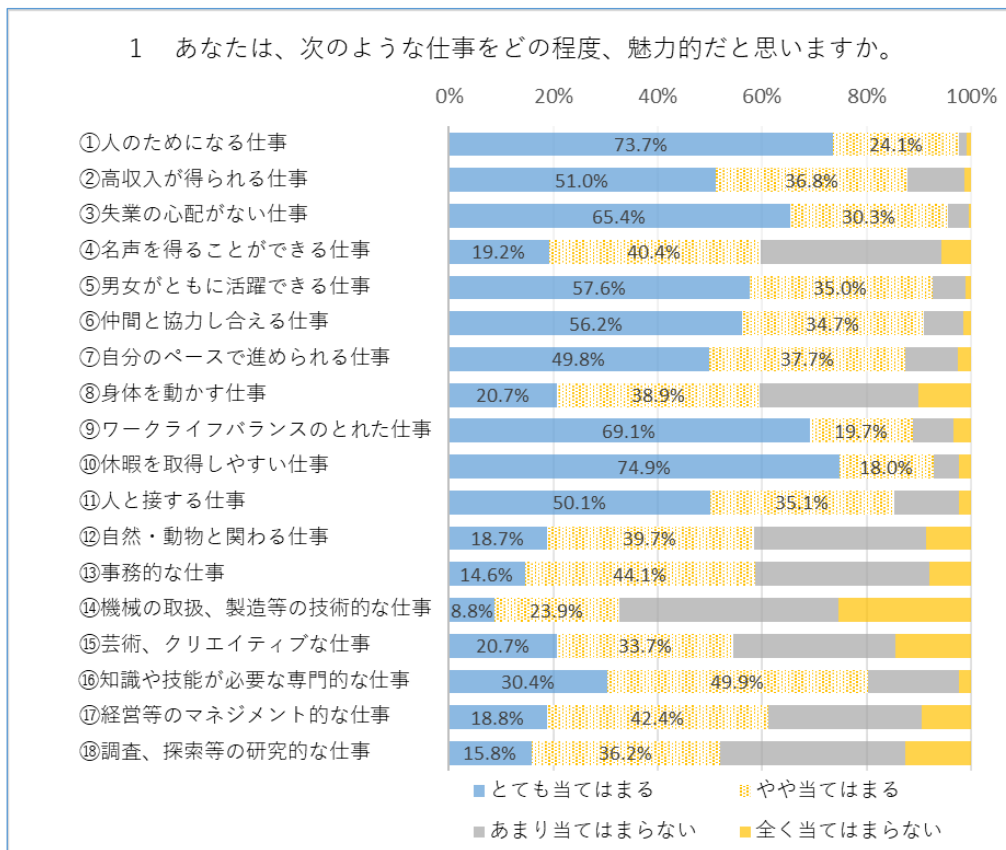
なお、愛知教育大学教職の魅力共創プロジェクト「教職の魅力に関するアンケート調査報告にあたって（暫定版）」に、『教員の指導力や知性に関連する10項目全てにおいて19歳以下の求める度合いが最も高く、とりわけ注目すべきは、「部活動への指導力があること」であり、「とても当てはまる」と回答した割合が40.3%であり、他の世代の割合10.0-14.2%と比べて著しく高かった。現在、部活動の外部への委託が進む中で、当事者である中高生を置き去りにしない対応が望まれる。』と記載されており、19歳以下にとっては部活動の指導について、教員の指導力が必要であると考えていることを忘れてはいけない。

当センターでは、行政には労働環境の改善や働き方改革の提案、大学には教職の現場への体験の機会の増加、小・中・高等学校にはアンケート結果の共有を行うような施策を今後、検討していく予定である。また、先生方のエネルギーを補充できるような研修や研究の実施、大学へ出向いて、大学生に教員の仕事のやりがいや正しい知識についての講義や講演、教職の魅力向上のためのアンケートを継続して実施し、教職の更なる魅力向上を目指していきたい。

資料1 アンケート結果（全体）

1 あなたは、次のような仕事をどの程度魅力的だと思いますか。それぞれ一つ選んでください。（n=1,781）

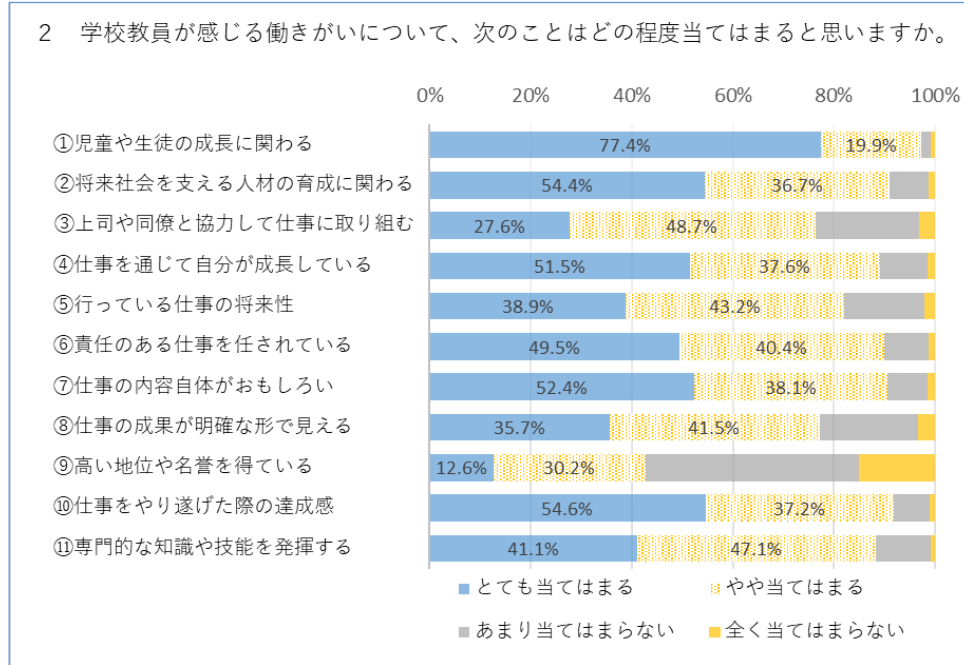
	とても 当てはまる	やや 当てはまる	あまり当て はまらない	全く当て はまらない
①人のためになる仕事	73.7%	24.1%	1.5%	0.7%
②高収入が得られる仕事	51.0%	36.8%	10.9%	1.2%
③失業の心配がない仕事	65.4%	30.3%	3.9%	0.4%
④名声を得ることができる仕事	19.2%	40.4%	34.8%	5.6%
⑤男女平等で、男女がともに活躍できる仕事	57.6%	35.0%	6.3%	1.1%
⑥仲間と協力し合える仕事	56.2%	34.7%	7.7%	1.3%
⑦自分のペースで進められる仕事	49.8%	37.7%	10.1%	2.5%
⑧身体を動かす仕事	20.7%	38.9%	30.3%	10.1%
⑨個人の生活と仕事が両立でき、ワークライフバランスのとれた仕事	69.1%	19.7%	7.7%	3.4%
⑩休暇（産休、育休、有給休暇、長期休暇）を取得しやすい仕事	74.9%	18.0%	4.9%	2.2%
⑪人と接する仕事	50.1%	35.1%	12.4%	2.4%
⑫自然・動物と関わる仕事	18.7%	39.7%	33.0%	8.6%
⑬定まった方式や規則に従って行うような事務的な仕事	14.6%	44.1%	33.2%	8.0%
⑭機械や道具、装置等を取り扱ったり、製造したりする技術的な仕事	8.8%	23.9%	41.9%	25.4%
⑮芸術に関わる仕事やクリエイティブな仕事	20.7%	33.7%	31.0%	14.5%
⑯知識や技能が必要とされる専門的な仕事	30.4%	49.9%	17.4%	2.3%
⑰企画立案、組織の運営や経営等のマネジメント的な仕事	18.8%	42.4%	29.4%	9.4%
⑱調査、探索のような研究的な仕事	15.8%	36.2%	35.4%	12.6%



2 学校教員が感じる働きがいについて、次のことはどの程度当てはまると思いますか。それぞれ一つ選んでください。（n=1,781）

	とても 当てはまる	やや 当てはまる	あまり当て はまらない	全く当て はまらない
①児童や生徒の成長に関わることができる	77.4%	19.9%	1.7%	0.9%
②将来社会を支える人材の育成に関わることができる	54.4%	36.7%	7.6%	1.3%
③上司や同僚と協力して仕事に取り組むことができる	27.6%	48.7%	20.6%	3.1%
④仕事を通じて自分が成長していると実感できる	51.5%	37.6%	9.4%	1.5%

⑤行っている仕事に将来性を感じることができる	38.9%	43.2%	15.8%	2.1%
⑥責任のある仕事を任されていると実感できる	49.5%	40.4%	8.8%	1.3%
⑦仕事の内容自体がおもしろいと感じることができる	52.4%	38.1%	8.1%	1.4%
⑧仕事の成果を明確な形で見ることができる	35.7%	41.5%	19.5%	3.4%
⑨高い地位や名誉を得ていると実感できる	12.6%	30.2%	42.3%	15.0%
⑩仕事をやり遂げた際の達成感を感じることができる	54.6%	37.2%	7.1%	1.1%
⑪仕事を行う上で専門的な知識や技能を発揮することができる	41.1%	47.1%	10.9%	0.9%

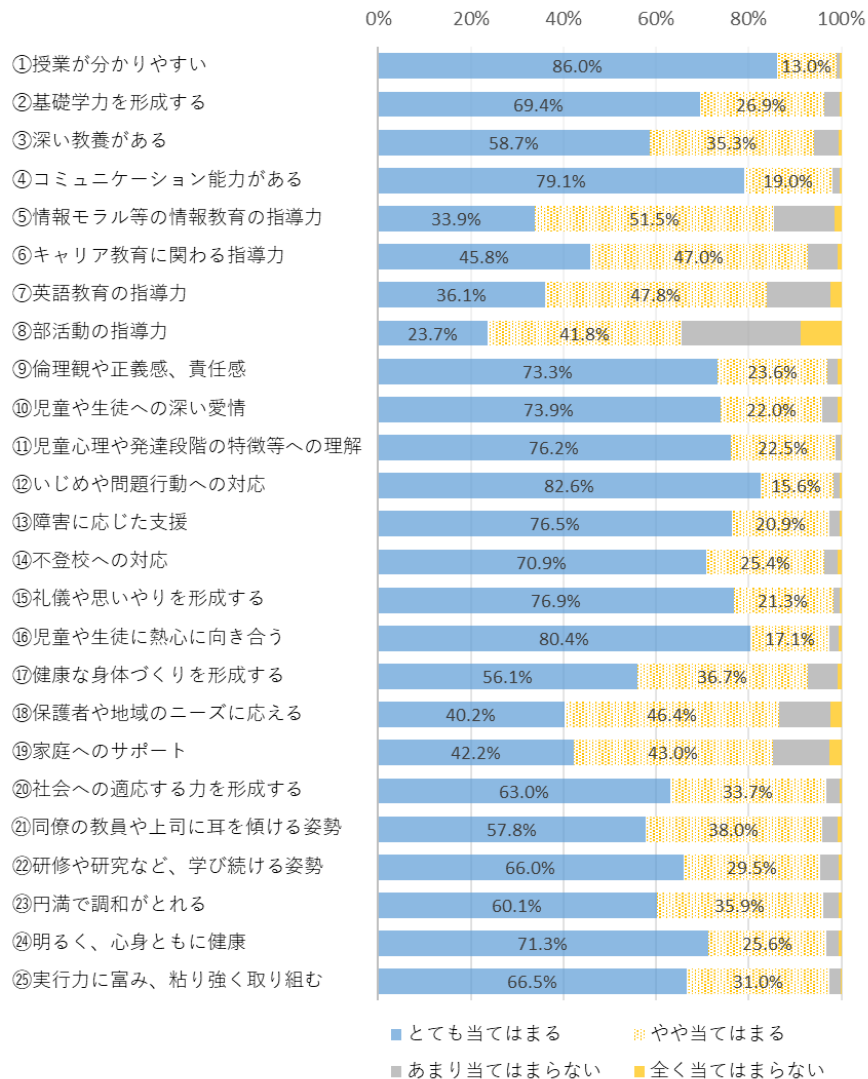


3 学校教員に求められる資質や能力について、次のことはどの程度当てはまると思いますか。それぞれ一つ選んでください。

(n=1,781)

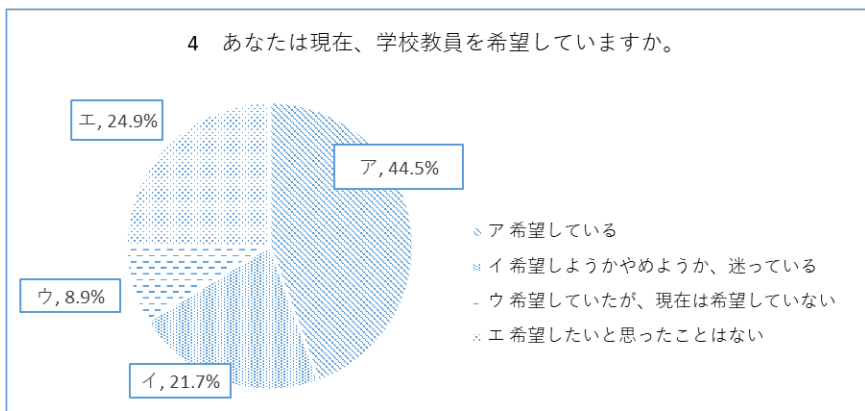
	とても当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
①授業が分かりやすく、児童や生徒の好奇心を刺激すること	86.0%	13.0%	0.7%	0.3%
②児童や生徒に最低限の基礎学力を形成すること	69.4%	26.9%	3.3%	0.4%
③深い教養があること	58.7%	35.3%	5.4%	0.6%
④コミュニケーション能力があること	79.1%	19.0%	1.5%	0.4%
⑤ICTの活用やプログラミング教育、情報モラルを含めた情報教育の指導力があること	33.9%	51.5%	13.2%	1.4%
⑥社会的・職業的自立に向けたキャリア教育に関わる指導力があること	45.8%	47.0%	6.3%	0.9%
⑦英語教育の指導力があること	36.1%	47.8%	13.7%	2.4%
⑧部活動の指導力があること	23.7%	41.8%	25.8%	8.7%
⑨教員としての倫理観や正義感、責任感があること	73.3%	23.6%	2.4%	0.7%
⑩児童や生徒への深い愛情があること	73.9%	22.0%	3.3%	0.8%
⑪児童や生徒の心理や発達段階の特徴等への理解があること	76.2%	22.5%	1.1%	0.2%
⑫児童や生徒間のいじめや問題行動に対応すること	82.6%	15.6%	1.5%	0.3%
⑬障害に応じた支援ができること	76.5%	20.9%	2.2%	0.4%
⑭不登校の児童や生徒に対応すること	70.9%	25.4%	2.9%	0.8%
⑮児童や生徒に挨拶や感謝の気持ちなどの礼儀や思いやりを形成すること	76.9%	21.3%	1.4%	0.4%
⑯児童や生徒に熱心に向き合うこと	80.4%	17.1%	2.0%	0.5%
⑰児童や生徒の健康な身体づくりを形成すること	56.1%	36.7%	6.3%	0.9%
⑱保護者や地域・社会のニーズに応えること	40.2%	46.4%	11.2%	2.2%
⑲家庭へのサポートができること	42.2%	43.0%	12.2%	2.6%
⑳変わりゆく社会で適応する力を形成すること	63.0%	33.7%	2.9%	0.4%
㉑同僚の教員や上司からの意見やアドバイスに耳を傾ける姿勢があること	57.8%	38.0%	3.4%	0.8%
㉒研修や研究など、教員になってからも学び続ける姿勢があること	66.0%	29.5%	4.0%	0.6%
㉓円満で調和がとれること	60.1%	35.9%	3.5%	0.5%
㉔明るく、心身ともに健康なこと	71.3%	25.6%	2.5%	0.6%
㉕実行力に富み、粘り強く取り組むこと	66.5%	31.0%	2.2%	0.2%

3 学校教員に求められる資質や能力について、次のことはどの程度当てはまると
 思いますか。



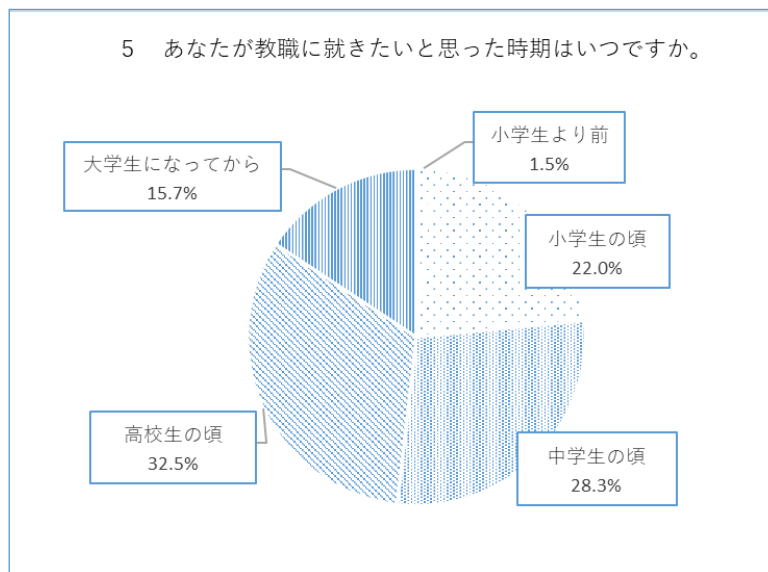
4 あなたは現在、学校教員を希望していますか。一つ選んでください。(n=1,781)

ア 希望している	イ 希望しようかやめようか、迷っている	ウ 希望していたが、現在は希望していない	エ 希望したいと思ったことはない
44.5%	21.7%	8.9%	24.9%



5 あなたが教職に就きたいと思った時期はいつですか。一つ選んでください。(n=1,338)

小学生より前	小学生の頃	中学生の頃	高校生の頃	大学生になってから
1.5%	22.0%	28.3%	32.5%	15.7%



6 あなたは、教育実習を受けましたか。一つ選んでください。(n=1,338)

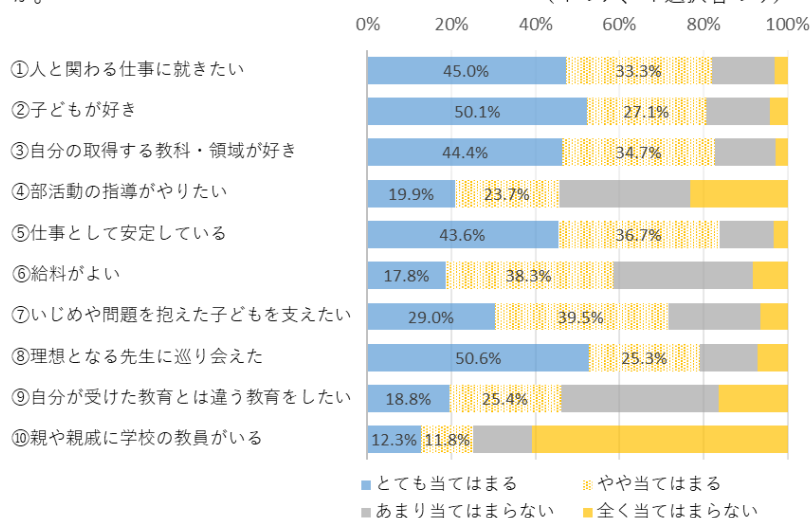
教育実習を受けた	教育実習を受けていない
9.5%	90.5%

7 4で「ア 希望している」「イ 希望しようかやめようか、迷っている」を選択した方は、回答してください。あなたが教職を志すようになった理由に、次のことはどの程度当てはまりますか。それぞれ一つ選んでください。

(n=1,179)

	とても当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
①人と関わる仕事に就きたいから	45.0%	33.3%	14.2%	2.9%
②児童や生徒が好きだから	50.1%	27.1%	14.4%	4.1%
③自分の取得したい免許の教科・領域が好きだから	44.4%	34.7%	13.8%	2.6%
④部活動の指導がやりたいから	19.9%	23.7%	29.9%	22.1%
⑤仕事として安定しているから	43.6%	36.7%	12.5%	3.1%
⑥給料がよいから	17.8%	38.3%	31.9%	7.9%
⑦いじめや問題を抱えた児童や生徒を支えたいから	29.0%	39.5%	20.9%	6.3%
⑧理想となる先生に巡り会えたから	50.6%	25.3%	13.1%	6.9%
⑨自分が受けた教育とは違う教育をしたいから	18.8%	25.4%	35.9%	15.7%
⑩親や親戚に学校の教員がいるから	12.3%	11.8%	13.5%	58.3%

7 あなたが教職を志すようになった理由に、次のことはどの程度当てはまりますか。(4のア、イ選択者のみ)

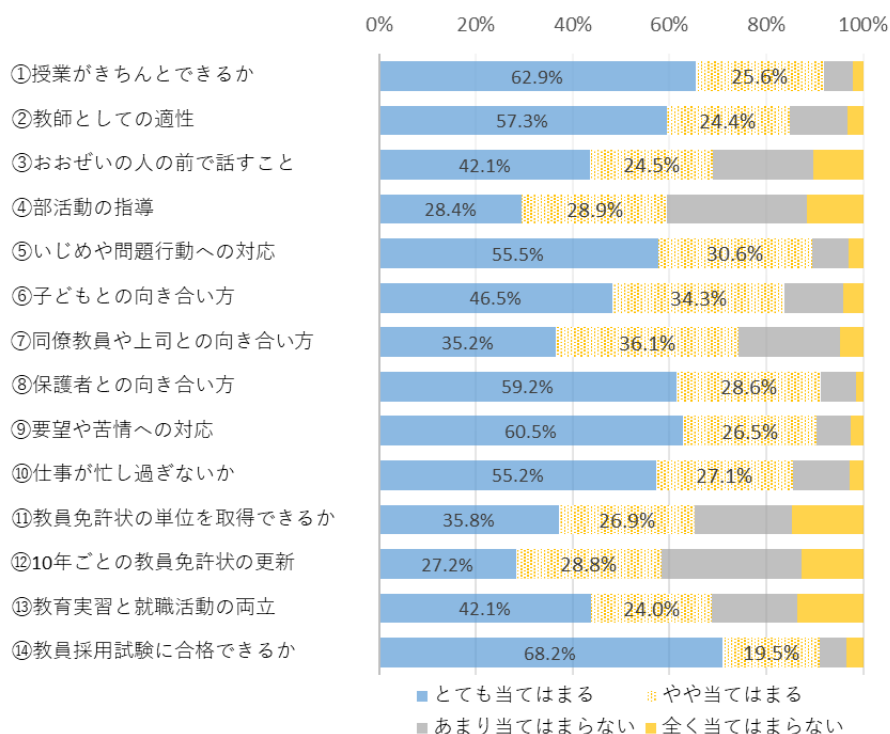


8 4で「ア 希望している」「イ 希望しようかやめようか、迷っている」を選択した方は、回答してください。
あなたが教職を志すに当たり、不安に感じていることや負担に思っていることについて、次のことはどの程度当てはまると思われますか。それぞれ一つ選んでください。

(n=1,179)

	とても当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
①授業がきちんとできるか	62.9%	25.6%	5.6%	2.1%
②教師としての適性があるか	57.3%	24.4%	11.5%	3.2%
③おおぜいの人の前で話すことができるか	42.1%	24.5%	20.0%	9.8%
④部活動の指導ができるか	28.4%	28.9%	27.8%	11.1%
⑤児童や生徒間のいじめや問題行動に対応できるか	55.5%	30.6%	7.3%	2.8%
⑥児童や生徒とどのようにして向き合っていけばよいか	46.5%	34.3%	11.6%	4.1%
⑦同僚教員や上司とどのようにして向き合っていけばよいか	35.2%	36.1%	20.3%	4.6%
⑧保護者とどのようにして向き合っていけばよいか	59.2%	28.6%	7.0%	1.4%
⑨要望や苦情への対応ができるか	60.5%	26.5%	7.0%	2.4%
⑩仕事が忙し過ぎないか	55.2%	27.1%	11.3%	2.7%
⑪教員免許状取得のための単位数が多く、教員免許状を取得できるか	35.8%	26.9%	19.3%	14.2%
⑫教員免許状更新制度により、10年ごとに更新できるか	27.2%	28.8%	27.9%	12.1%
⑬教育実習と就職活動の時期が重なって、両立できるか	42.1%	24.0%	16.9%	13.1%
⑭教員採用試験に合格できるか	68.2%	19.5%	5.3%	3.2%

8 あなたが教職を志すに当たり、不安に感じていることや負担に思っていることについて、次のことはどの程度当てはまると思われますか。（4のア、イ選択者のみ）



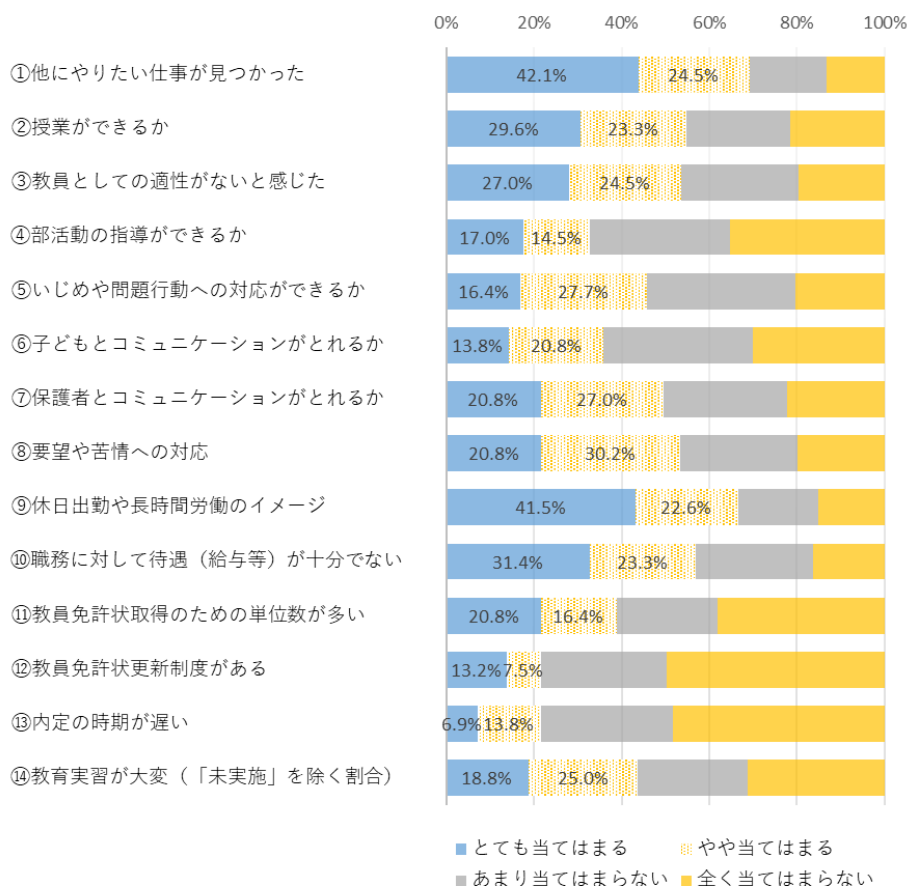
9 4で「ウ 希望していたが、現在は希望していない」を選択した方のみ、回答してください。あなたが希望を取りやめた時期を、一つ選んでください。（未回答あり） (n=159)

大学入学前	大学入学後
24.5%	71.7%

10 4で「ウ 希望していたが、現在は希望していない」を選択した方のみ、回答してください。あなたが希望を取りやめた理由について、次のことはどの程度当てはまると感じますか。それぞれ一つ選んでください。(n=159)

	とても 当てはまる	やや 当てはまる	あまり当ては まらない	全く当て はまらない
①他にやりたい仕事が見つかったから	42.1%	24.5%	17.0%	12.6%
②授業ができるか不安だから	29.6%	23.3%	22.6%	20.8%
③教員としての適性がないと感じたから	27.0%	24.5%	25.8%	18.9%
④部活動の指導ができるか不安だから	17.0%	14.5%	30.8%	34.0%
⑤いじめや問題行動への対応ができるか不安だから	16.4%	27.7%	32.7%	19.5%
⑥児童や生徒とコミュニケーションがとれるか不安だから	13.8%	20.8%	32.7%	28.9%
⑦保護者とのコミュニケーションがとれるか不安だから	20.8%	27.0%	27.0%	21.4%
⑧要望や苦情への対応ができるか不安だから	20.8%	30.2%	25.8%	18.9%
⑨休日出勤や長時間労働のイメージがあるから	41.5%	22.6%	17.6%	14.5%
⑩職務に対して待遇（給与等）が十分でないから	31.4%	23.3%	25.8%	15.7%
⑪教員免許状取得のための単位数が多いから	20.8%	16.4%	22.0%	36.5%
⑫教員免許状更新制度があるから	13.2%	7.5%	27.7%	47.8%
⑬内定の時期が遅いから	6.9%	13.8%	28.9%	46.5%
⑭教育実習が大変だったから（「未実施」を除く）	18.8%	25.0%	25.0%	31.3%

10 あなたが希望を取りやめた理由について、次のことはどの程度当てはまると感じますか。
(4のウ選択者のみ)

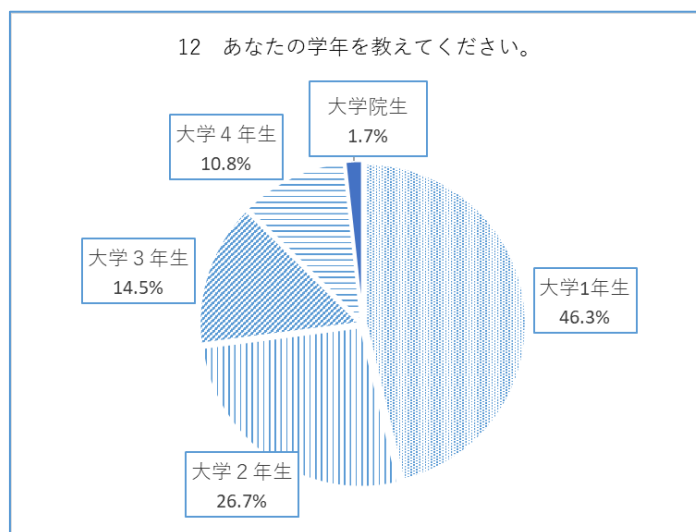


11 あなたの性別を教えてください。(n=1,781)

男	女	回答しない
24.1%	73.9%	1.9%

12 あなたの学年を教えてください。(n=1,781)

大学1年生	大学2年生	大学3年生	大学4年生	大学院生
46.3%	26.7%	14.5%	10.8%	1.7%



13 教職自体または教職を取り巻く環境の何が変われば、あなたは教職により魅力を感じますか（任意回答）。

<自由記述> (n=440)